

# 白馬村図書館等複合施設基本構想(案)

平成31年3月8日

長野県 白馬村

# 目次

はじめに .....	1
第1章 基本構想策定の背景と目的 .....	2
1. 背景と目的 .....	2
2. 現在の白馬村図書館の概要(平成30年10月1日現在) .....	3
(1)施設概要 .....	3
(2)サービス内容 .....	4
(3)利用状況 .....	5
第2章 新たな図書館等複合施設に対する意見収集 .....	6
1. 住民アンケート(平成30年7月25日実施) .....	6
2. 住民へのヒアリング .....	9
(1)ヒアリング対象者 .....	9
(2)白馬村及び白馬村図書館の現状に対する主な意見 .....	9
3. 住民ワークショップ .....	11
(1)ワークショップの開催状況 .....	12
(2)各ワークショップの概要と主な意見 .....	13
(3)第1回から第3回を振り返って .....	14
(4)機能毎に求められる姿 .....	19
4. 白馬村図書館施設検討委員会 .....	21
(1)白馬村図書館施設検討委員会の開催状況 .....	21
(2)新しい図書館の施設及びサービスに関する報告書の概要 .....	22
(1)公共施設等総合管理計画における各施設の基本的な方針 .....	25
(2)庁内における検討 .....	25
6. 白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議 .....	27
(1)白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議の開催状況 .....	27
(2)白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議委員名簿 .....	28
(3)有識者会議における主な論点 .....	28
(4)有識者会議のまとめ .....	34
第3章 新たな図書館等複合施設の基本的な方針 .....	35
1. 基本的な方針 .....	35
(1)複合化する既存の公共施設 .....	35
(2)交流を生み魅力を高める機能の検討 .....	36
2. 施設規模 .....	36
(1)図書館機能の規模 .....	36
(2)子育て支援機能の規模 .....	37
(3)その他機能の規模 .....	39

3. 建設候補地.....	40
第4章 新たな図書館等複合施設の機能の検討 .....	41
1. 図書館の目指す姿 .....	41
(1)新たな図書館等複合施設のコンセプト.....	42
(2)「滞在型」、「交流型」の施設.....	42
2. 図書館に求められるサービス .....	43
(1)「地域の仕事を知る」事業展開 .....	43
(2)多世代・多言語の新聞・雑誌等のサービス.....	43
(3)子育て支援としての図書館(子ども図書室).....	44
(4)ネットワークシステムの活用 .....	44
(5)地域住民が世代を超えて学ぶ場 .....	44
(6)地域資料の保管・活用 .....	44
(7)人材育成と起業支援.....	45
3. 子育て支援施設との連携.....	45
4. 健康・医療との連携 .....	46
(1)健康相談等 .....	46
(2)他の行政サービスとの連携 .....	46
(3)医療健康情報サービス.....	46
(1)アールスペース.....	47
(2)マンガ図書館 .....	48
(3)附帯施設.....	48
6. 交通アクセスについて.....	49
第5章 建設・運営に向けた今後の検討 .....	50
1. 基本計画の策定に向けて.....	50
2. 今後の事業推進について.....	50
3. 運営体制と施設のあり方の検討について.....	51
資料編 .....	52
資料1. 図書館及び図書館を含む複合施設における先進事例 .....	53
資料2. 新しい図書館の施設及びサービスに関する報告書 .....	60
資料3. 白馬村公共施設等総合管理計画による耐用年数到来年度一覧表 .....	71
資料4. 白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議議事録 .....	72

## はじめに

白馬村図書館は、明治42年の開設以来、長年にわたり公共施設の空きスペースを活用することで、サービスを提供してきました。現在の図書館は、施設規模が小さく、書架スペースや閲覧室・学習室等が十分に確保できないため、提供するサービスも限られる状況であり、新しい図書館の建設を望む住民からの声は、以前から多く挙げられていました。

また、本村の基本理念である「白馬の豊かさとは何かー多様であることから交流し学びあい成長する村ー」を実現するためには、多様な人々の交流を生み出す場やきっかけが必要となりますが、村内には、多くの人が気軽に立ち寄って集うことができる施設がないことも、課題として挙げられています。

公共施設については、今後の人口動態や財政状況を考えると、複合化・集約化を検討することが望ましいことに加え、親和性が高い機能を包含することにより、相乗効果を生み出すことも期待されることから、「図書館等複合施設」として、どのような機能を有する施設が白馬村に求められているのか、多角的に検討を進めてきました。

本基本構想の策定にあたっては、平成29年度から開催している「白馬村図書館施設検討委員会」の答申、住民参加のワークショップ、住民アンケート、関係者へのヒアリング、平成30年度に開催した「白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議」等で出された意見及びアイデアを総合的に勘案してまとめています。

本基本構想は、施設の建設及び運営に向けて基本的な概念と方針を示した上で、考えられる機能等をまとめたものです。建物の計画や設計を具体的に進めるために、ガイドラインとしての役割を担うとともに、設計後の建設や運営も含めて、最上位に位置づけられる価値判断基準であり、意思決定や合意形成において重要な指針となるものです。

本村の目指すべき未来に向けて、多くの人々が集い、一人ひとりが成長し活躍できる拠点となるよう、基本計画の策定や設計・建設を進めていきます。



# 第1章 基本構想策定の背景と目的

## 1. 背景と目的

白馬村では、第5次総合計画において、「白馬の豊かさとは何かー多様であることから交流し学びあい成長する村ー」を基本理念に掲げ、生きがいつくりや生活の質の向上のために、幅広い年代において住民が主体的に学び続けることで、「一人ひとりが成長し活躍できる村」を目指しています。

図書館は、住民にとって「知を集積する施設」であるのはもちろんのこと、「図書館法」（昭和25年法律第118号）第3条に定められているように、「図書館奉仕」を目的として設置・運営されるものですが、現在の白馬村図書館は、平成10年に旧長野地方法務局大町支局白馬出張所を後利用する形で、必要最小限の改修を加えて開設したものであり、図書館本来のサービスの充実・向上を行うことにおいて、多数の制約や課題を有する状況となっています。

「白馬村第5次総合計画」、「白馬村総合戦略」、「白馬村図書館基本計画」等において、「学びあい育てあう村づくり」の中心的な施設となる新しい図書館の建設を施策として掲げ、平成29年7月に「白馬村図書館施設検討委員会」を設置するとともに、住民参加型のワークショップ等を開催してきました。

また、国内外からの移住者や二地域居住者など多様な人々が暮らす地域でありながらも、気軽に立ち寄り集う施設がないために、地区や世代、国籍を超えた交流が生み出されず、コミュニティが固定化・硬直化していることもまちづくりの課題として挙げられ、交流の場を求める声が多く寄せられています。

さらに、建設後の運営費を抑制するとともに、相乗効果を生み出すような機能を併せ持つことにより、多くの人々の交流を創出することが期待されるため、図書館単独ではなく、複合施設としての整備を検討することとしました。住民が望む図書館機能及び多様な人々が交流するために必要な機能、さらには本村のまちづくりを推進するための拠点とするため、新たな図書館等複合施設のあり方を検討しました。

新たな図書館等複合施設については、白馬村の人口推移や財政状況を踏まえ、中長期的な視点を持ち、将来にわたって住民の教育と文化の発展に寄与できる図書館機能に加えて、現在白馬村に不足している施設・サービス等を複合的に備えた施設とする必要があります。

合理的かつ効果的で、人々の交流を生み出す新たな図書館等複合施設の基本計画及び設計の礎とすることを目的として、基本構想を策定します。

## 2. 現在の白馬村図書館の概要(平成 30 年 10 月 1 日現在)

### (1) 施設概要

開設日	平成 10 年 10 月 8 日 (旧長野地方法務局大町支局白馬出張所の建物を後継利用)	
建物	昭和 62 年 12 月 10 日築 鉄筋コンクリート造 1 階 285.23 m <sup>2</sup> 2 階 188.58 m <sup>2</sup> 計 473.81 m <sup>2</sup> (図書館専有面積 398.2 m <sup>2</sup> )	
職員数	4 名	兼任 1 名 (図書館長兼生涯学習スポーツ課長、司書資格なし)
		嘱託職員 2 名 (司書資格あり)
		臨時職員 1 名 (司書資格あり)
開館時間	午前 9 時から午後 6 時まで	
休館日	毎週月曜日、祝日、毎月最終金曜日 (その他：年末年始、蔵書点検期間)	



現在の白馬村図書館の外観

(2)サービス内容

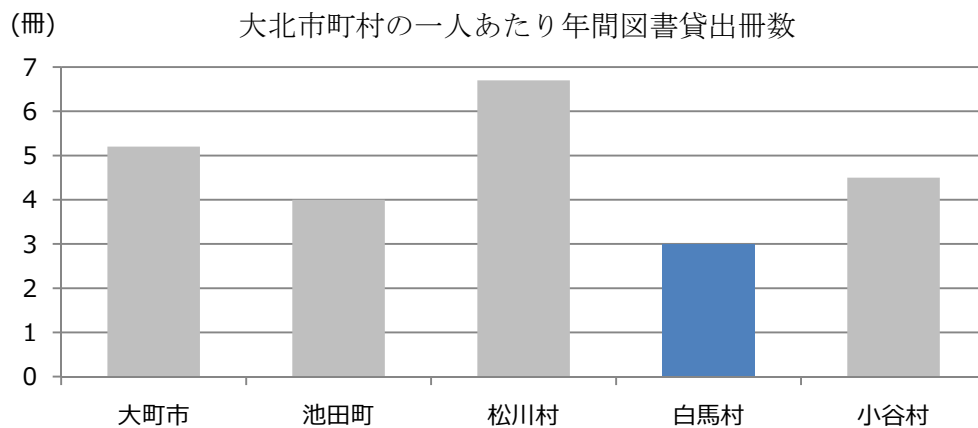
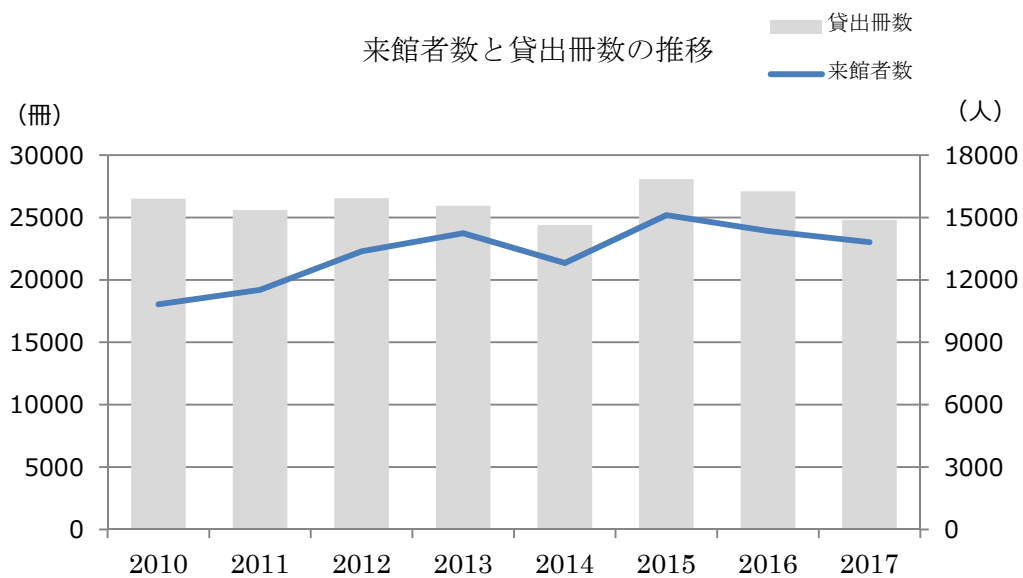
貸出冊数	ひとり 10 冊（うち視聴覚資料 3 点）まで
貸出期間	3 週間
団体貸出	100 冊まで 60 日間（村内の団体のみ）
蔵書冊数	53,241 冊（視聴覚資料及び雑誌を含む）
開架図書	24,573 冊 視聴覚資料DVD 339 点、CD 64 点（平成 30 年 3 月 31 日時点）
新聞	3 紙（朝日新聞、信濃毎日新聞、大糸タイムス）
その他	館内閲覧用視聴覚資料再生プレーヤー 3 台 大北地域の図書館の相互利用（どの図書館でも返却可能） レファレンスサービス（※利用者の求める情報を図書館が提供する）



現在の白馬村図書館の館内

(3) 利用状況

登録者数	2,546 人（平成 30 年 3 月 31 日現在）
来館者数	13,811 人（平成 29 年度実績）
貸出冊数	24,813 冊（平成 29 年度実績）





## 第2章 新たな図書館等複合施設に対する意見収集

白馬村では、新たな図書館等複合施設の検討にあたり、多くの地域住民の声を反映させるため、アンケート、ヒアリング、ワークショップ、図書館施設検討委員会等を実施してきました。

また、専門的な視点も取り入れた基本構想としていくために、各分野に知見を有する委員による有識者会議も開催してきました。

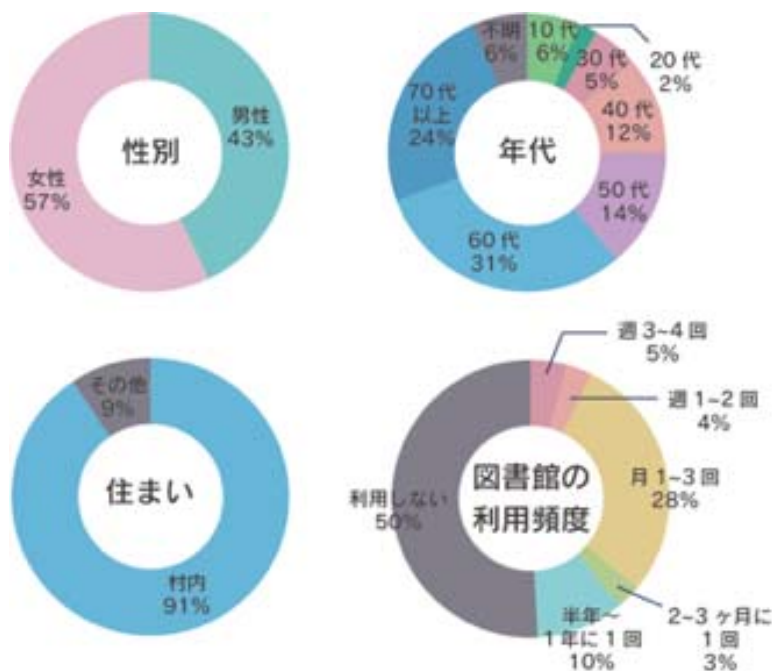
本章では、これまでに取り組んできたそれぞれの実施結果を報告します。

### 1. 住民アンケート(平成 30 年 7 月 25 日実施)

白馬村では、地域住民の声を多く取り入れるため、基本構想策定期間中に、多世代の皆さんが多く集まる「第2回 NAGANO 国際音楽祭 in 白馬」にて、「白馬村図書館等複合施設の建設検討に関するアンケート」を実施しました。

音楽祭への参加者およそ 430 人に対して、入場の際に受付にて配布し、音楽祭終了後に回収した結果、95 名から回答を得ました。

回答者の属性は、以下のとおりです。



結果として年代が偏ってしまった点や配布人数に対して回答者が少なかったという点においては、多世代の幅広い声を集めることができたとは言いきれませんが、新しい図書館等複合施設に期待するものについて、多くの意見を得ることができました。

実施したアンケートの設問と各種回答の傾向は、以下のとおりです。

■設問1：あなたが思う白馬村の良いところ・好きなところを教えてください。

□回答：

山岳景観、豊かな自然、人々の温かさ、人々も動植物も多様であること、四季を通じて楽しめる様々なアウトドアアクティビティがあることなど

ほとんどの人が自然豊かで山岳景観が素晴らしいところを挙げていました。また、自然・景観以外では、地域内外を問わず、人々が温かいという意見も多くありました。

■設問2：白馬村の課題や問題点があれば教えてください。

□回答：

公共交通の充実、子どもの遊び場の確保、雨天時に楽しめる場所がない、インフラの再整備、医療機関の充実、白馬駅前の景観（無電柱化）、年間を通じて安定した雇用、歩いて楽しめるまちづくり、芸術・文化の振興（観光偏重）、外国人や若者の活躍

住民や観光客の移動手段として、車以外の交通手段の整備についての課題が挙げられました。また、まちづくりのビジョンや若年層の活躍の場を望む意見も、年代にかかわらず多くありました。その他、医療機関の誘致・充実についても期待が多いことが分かりました。

■設問3：白馬村の図書館はどのような図書館であってほしいと思いますか。

□回答：

蔵書・雑誌・マンガ等が充実している、スキーや登山など観光に関する地域資料が充実している、学びの場、くつろぎとやすらぎの場、公共交通での行きやすい施設、村外の人も含めて誰もが気軽に立ち寄れる施設、親子で楽しめる場、飲食ができる交流スペースがある、視聴覚資料やPCが充実していて閲覧席・学習室が多くある図書館、学校との連携

図書館に対する要望としては、白馬村に特化した書籍・雑誌・漫画・視聴覚資料・PCの設置や、開館時間の延長、村内の小中高校など教育機関との連携を求める意見がありました。

また、図書館内の環境については、学習や調べものができること、村民のみではなく誰もが立ち寄れる場所であること、雨天時など時間がある時に気軽に利用できる場所であることなどが希望として挙がりました。

■設問4：図書館を含む複合施設にはどのような施設・機能があれば良いと思いますか。

□回答：

子育て支援施設、子どもが遊べる公園、工作部屋、音楽ホール、映画上映施設、美術館、カフェ・居酒屋等の飲食施設、アパレル・アウトドア等のお店、道の駅のような機能、ボルダリングやプールなど体を使う施設、展示などができる多目的スペース、障がいを持つ方が活躍できる場

子育て支援施設やレストラン・カフェ・ショップの誘致、映画・音楽・美術展などに利用可能な多目的ホールなどの意見が挙がったと同時に、白馬村全体を知ることができる施設であること、複合施設からも白馬の景観が楽しめること、障がいを持つ人や高齢者への配慮がされていること、そして、障がいを持つ人たちも共に働くことができる施設であることなどが挙げられました。

■設問5：白馬村の課題解決のために図書館等複合施設に期待することを教えてください。

□回答：

あらゆる人が学習できる施設、村民も含めて誰もが集う施設、雨天時に観光客が楽しめる場所、外から来た人を温かく受け入れて一緒に村づくりをする拠点、意欲に満ちたスタッフの配置、夜間利用、人と人をつなげる場所

村内外に限らず、県外や海外からの人々も含め、図書館が集客の要となる施設であり、誰もが気軽に利用できる全天候型の場所であることが挙がりました。白馬駅に近い場所か、白馬駅から白馬村役場を有機的につなぐ場所に建設し、白馬三山が見渡せて、インテリアなどにも配慮された、ゆったりとした環境の中で読書を楽しめることが期待されています。

また、夜間も利用したいという意見や、自然を壊さない施設であってほしい、次世代への負の遺産にしないでほしいという意見もありました。

## 2. 住民へのヒアリング

宿泊関係者やまちづくり関係者、子育て中の母親等に対して、今の白馬村をどのように感じているのかを知るために、アンケートのみではなく、直接対話のヒアリングを行いました。

### (1)ヒアリング対象者

ヒアリングを実施した対象者は、次のとおりです。

白馬村在住の 11 名（性別：男性 3 名、女性 8 名／年代：30 代～70 代）  
職業・役職等：宿泊・観光業経営者、子育て中の母親、まちづくり関係者等

### (2)白馬村及び白馬村図書館の現状に対する主な意見

ヒアリングは、①白馬村に対する意見、②白馬村図書館に対する意見、③新たな図書館等複合施設に求めるもの、の 3 つの視点で実施しました。

また、③については、(ア) 空間に関する意見、(イ) 複合する機能に関する意見、(ウ) 建設場所に関する意見、(エ) 図書館機能に関する意見、(オ) その他の意見、の 5 つの視点に分けてヒアリングを行いました。

ヒアリング結果は、次のとおりです。

#### ①白馬村に対する意見

- ・気軽に立ち寄れる交流の場がない。
- ・「山岳」という視点において「稼ぐ」ことよりも「文化」を大切にしてほしい。
- ・医療機関が少ない。

#### ②白馬村図書館に対する意見

- ・学習室がない。
- ・多くの人が大町市立大町図書館を利用している。
- ・雨や雪など天候が悪い時に図書館を利用したいが狭い。

- ・ 山のことをよく聞かれるので、山岳に関係する本を揃えてほしい。
- ・ JR 白馬駅と図書館とで複合的に資料を見せていくような取り組みをしてほしい。

③新たな図書館等複合施設に求めるもの

<p>(ア) 空間に関する意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北アルプスの眺望を楽しめるスペースを大切にしたい。</li> <li>・ 一人で楽しむ時間を過ごせる場所が欲しい。</li> <li>・ 待合場所としての機能する場になってほしい。</li> <li>・ 忙しい村民が多いのでお昼寝スペースなどゆったり休める場所が欲しい。</li> <li>・ 文化的な雰囲気の中で過ごしたい。</li> </ul>
<p>(イ) 複合する機能に関する意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 村内にない小児科、産婦人科、耳鼻科、眼科等を併設してほしい。</li> <li>・ 本が買える複合施設であってほしい。</li> <li>・ アートスペースが欲しい。</li> <li>・ ものづくりをしている方が多いので、発表の場・ビジネスの場となってほしい。</li> <li>・ 図書館＋シアター＋カフェがあれば人が集まりそう。</li> <li>・ 輸入食品を取り扱う小売店を併設してほしい。</li> <li>・ 国際会議や芸術文化を楽しめる 200 人規模のホール・会議室が欲しい。</li> <li>・ 国立公園のビジターセンターとして機能する施設が欲しい。</li> <li>・ 白馬駅前の観光案内拠点となってほしい。</li> </ul>
<p>(ウ) 建設場所に関する意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅前を通る小中高生が多いため、駅の近くに建設してほしい。</li> <li>・ 多くの人が用事のついでに寄れるよう、役場や銀行、お店が集積するエリアが良い。</li> </ul>
<p>(エ) 図書館機能に関する意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蔵書数を増やしてほしい。</li> <li>・ マンガコーナーを充実してほしい。</li> <li>・ 白馬の歴史を知りたがっている外国人が多いの</li> </ul>

	<p>で、地域資料を展示してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の本をもっと増やしてほしい。</li> <li>・オーディオブックや電子ブックなどを導入してほしい。</li> </ul>
(オ) その他の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の案内も備えてほしい。</li> <li>・施設へ行くためのコミュニティバスを運行してほしい。</li> <li>・世界の国立公園とのネットワークを強化する拠点となってほしい。</li> <li>・成田空港から白馬駅の直通電車を走らせられないだろうか。</li> </ul>

現状に対しての主な意見として「居場所がない」というものが多くありました。また、「医療機関が少ない」という不安もあり、特に小児科や産婦人科などを希望する意見が多くありました。

そして、「白馬村の特徴を活かした活動をする施設が少ない」との意見もあり、それらのほとんどの意見が、新たな図書館等複合施設に期待されるものでした。

### 3. 住民ワークショップ

新たな図書館等複合施設について、多様な住民からの意見を収集することを目的として、3回にわたるワークショップを開催しました。参加者を公募したところ、地域に長く住んでいる人や最近移住して来た人なども含め、高校生から60代までの幅広い年代の参加者25人（平均年齢34歳）にご応募いただきました。

5つのグループに分かれて、「SDGs（持続可能な開発目標）\*の17の目標を案内図に、参加者一人ひとりが白馬村のまちづくりのイメージや将来像を広げていき、アイデアを出し合いました。

SDGsを「地域が世界レベルの議論に直接つながることのできる入口」として、いわば「スイッチ」として捉え、ワークショップの視点に用いました。そして、SDGsが掲げる「誰一人として取り残さない」ことは、地域の生涯学習機能である図書館、すなわち交流センターのあり方とつながると考え、求められる機能を探りました。

\* SDGs (エス・ディー・ジーズ) とは・・・

「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称です。

SDGsは2015年9月の国連サミットで採択されたもので、  
国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。  
持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットから構成され、  
地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。



(1) ワークショップの開催状況

全3回の構成で実施したワークショップは、次のとおり開催しました。

回	日付	テーマ
第1回	平成30年9月12日	SDGsから白馬村の未来を描き、新たな図書館等複合施設のあり方を考える
第2回	平成30年10月19日	第1回のワークショップで議論した内容について、参加者が周囲の人々からリサーチを行い、それを基に施設に求められる機能を考える
第3回	平成30年11月13日	求められる機能をさらに深掘りし、その機能を実現するために必要なヒト、コト、モノを含めて可能なことを語る

## (2)各ワークショップの概要と主な意見

全3回の構成で実施したワークショップの概要と主な意見は以下のとおりです。

### ①第1回 SDGsから白馬村の未来を描き、新たな図書館等複合施設のあり方を考える

SDGsの1から17までの目標を意識して白馬村の未来を考え、付箋に書き出し、それらについて議論しました。特に多く議論されたのは、「3・すべての人に保健と福祉を」と「4・質の高い教育をみんなに」でした。

また、第2回のワークショップまでに、SDGsの17の目標から白馬村をどのように感じ、どのようになってほしいか、家族や友人・知人にインタビューをしてもらうという宿題を出しました。

### ②第2回 周囲の人々へのリサーチを行い、施設に求められる機能を考える

宿題として出されたインタビューについて、参加者の1人は、40人もの人にインタビューを実施し、56もの意見を引き出してきました。それぞれのインタビューの結果を共有し、さらに議論を深めました。主に意見が集まったのは、SDGsの1～17の目標のうち、「11・住み続けられるまちづくりを」でした。

### ③第3回 機能の深掘りと実現するために必要なヒト、コト、モノを語る

第3回は、求められる機能をさらに深掘りした上で、その機能を実現するために必要な「ヒト」、「コト」、「モノ」が何なのかということを含めて、「持続可能」をキーワードに語り合いました。

ワークショップで出された機能のアイデアは以下のとおりです。

□ワークショップで出された主な意見（一部抜粋）



- ・IDカードにより運営を行う。図書館機能を支えることはもちろんのこと、電子決済、公共交通、寄附など、貸出カードがとんでもなく便利になる。
- ・そもそもハコモノはあるのだろうか。既存施設に図書館機能をマッチングさせる。
- ・自転車に特化した施設やまちづくりを考える。
- ・環境やランニングコストを考慮し、クリーンエネルギーを活用した運営を模索する。





### (3) 第1回から第3回を振り返って

全体を通して、第1回から第3回のワークショップで出された意見から、新しくなることに伴う運営面の利便性について考えていく必要があること、白馬村の環境や特性を活かした機能の検討も必要であるということが分かりました。第1回から第3回までにSDGsの17の目標に沿って出された主な意見は、以下のとおりです。

SDGsの17の目標	機能についての主な意見
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物を持ち寄れる子どもカフェ・村民食堂</li> <li>・「食」＝子どもの居場所作り</li> <li>・子どもでもお手伝いができて、お小遣いがもらえる</li> <li>・絵本がたくさんある図書館</li> <li>・就労支援</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産品を安く入手できる仕組み</li> <li>・料理ができる図書館（郷土料理もできる）</li> <li>・生活の知恵の共有</li> <li>・高齢者から若年層への食文化の伝承</li> <li>・道の駅と複合している図書館</li> <li>・新しい職場ができるという考え方</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひとりぼっちのお年寄りへのケア</li> <li>・ アルコール依存症・ギャンブル依存症の解決</li> <li>・ 村内にクリニックしかない不安</li> <li>・ 医療や福祉施設との連携</li> <li>・ 温泉（足湯）を引く</li> <li>・ スポーツジムの設置</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不登校児童・学生へのケア</li> <li>・ 社会人のキャリアアップ、退職後の生きがい探し</li> <li>・ 子どもから大人までが交流できる空間</li> <li>・ 夏休みなどの体験学習の開催</li> <li>・ 九九があやふやな中学生の救済</li> <li>・ 国際交流スペース</li> <li>・ コミュニケーション力、会話力を養い情報が集う</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家事と育児の負担のシェア</li> <li>・ ジェンダーフリー（男女平等）の理解の促進</li> <li>・ ダイバーシティ（多様性）を認め合う</li> <li>・ パートナーシップ制度</li> <li>・ 研修会、勉強会、自主学習、知識の共有</li> <li>・ L G B T Q に配慮した誰でも使えるトイレ</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水の流れや音を感じる施設</li> <li>・ 茶室付き、日本庭園がある施設</li> <li>・ 自然の中で寝ながら楽しめる施設</li> <li>・ パリのように温泉水など水の無料飲料機を設置</li> <li>・ 庭に池や小川をつくる</li> <li>・ 防災施設としての機能</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小水力発電、バイオマス発電の活用</li> <li>・ 太陽エネルギーを使う施設</li> <li>・ 公共交通の利用促進</li> <li>・ 雪室の活用</li> <li>・ 電気自動車、水素自動車のシェア</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な業界と職業</li> <li>・ 観光活性化の拠点</li> <li>・ 図書館に居間のノウハウ</li> <li>・ ワークスペース、サテライトオフィス</li> <li>・ 就労支援、創業支援</li> <li>・ 情報と人のアーカイブとマッチング</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ものづくりを楽しめる空間、メイカーズスペース</li> <li>・ レーザーカッター、3Dプリンタ、ソフトウェア</li> <li>・ タブレットで様々なジャンルの本が読める図書館</li> <li>・ 地域通貨、キャッシュレス</li> <li>・ 分野毎にクラス分けされた農業学校</li> <li>・ コワーキングスペース</li> <li>・ 経験知識豊富なアドバイザー、マスターの存在</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がい者への配慮</li> <li>・ 多言語化対応（表示・本・職員・事務書類）</li> <li>・ 外国人と日本人の交流</li> <li>・ カルチャーミックス</li> <li>・ 運転免許がない人にも配慮してバス停を設ける</li> <li>・ 地域間の不平等を解決する移動図書館</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夕方・夜間に行政サービスを受けられる機能</li> <li>・ 駅の上にある図書館</li> <li>・ 子どもたちが集えて「遊び場」になる図書館</li> <li>・ 短期滞在者でもリクエストできるように</li> <li>・ 託児、保育所のある図書館</li> <li>・ カフェ、美容室、ミニシアターが併設された図書館</li> <li>・ マンガ喫茶のような図書館</li> <li>・ 子どもとお年寄りが触れ合える図書館</li> <li>・ 自分の好きな場所を見つけられる図書館</li> <li>・ 個室のある図書館</li> <li>・ 星が見える図書館</li> <li>・ 宅配の受け取りができる図書館</li> <li>・ 一人暮らし世帯のコミュニティとなる施設</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスまでいなくても何らかの乗り合い</li> <li>・公共公園を整備</li> <li>・夜に外灯がある施設</li> <li>・空き家バンク、空き家対策</li> <li>・小児科、産婦人科</li> <li>・移動販売などおしゃれな感じで人が集まれる場（クラフト・フェアのイメージ）</li> <li>・防犯機能、災害対策</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミを減らす取り組み</li> <li>・リユースコーナーのある図書館（本・服・雑誌など）</li> <li>・プラスチック問題</li> <li>・ポイ捨てをなくしたい</li> <li>・みんなで壁を塗ったり花を植えたりする</li> <li>・マルシェ、マーケットとしての機能（量り売り、NOパッケージ）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然や季節を感じることができる空間＝CO<sub>2</sub>排出量</li> <li>・司書が季節によって制服を変える図書館</li> <li>・冷暖房は、季節を感じられる程度のもので、クリーンエネルギーとのタイアップ</li> <li>・温暖化と雪をテーマに地球の変化を身近に知る</li> <li>・気候変動サミット開催</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチック製品を使わない</li> <li>・川の生態系を守る</li> <li>・耕作放棄地の利用</li> <li>・山小屋のトイレ改善</li> <li>・上流の白馬から海に流れていく責任</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山がきれいに見える図書館</li> <li>・ 木の香りがする図書館</li> <li>・ テントを張れる図書館</li> <li>・ 動物とたわむれることができる図書館</li> <li>・ 自然の中に図書館をつくる</li> <li>・ 林業の復活、針葉樹を広葉樹に植え替える</li> <li>・ 乱開発をやめる</li> <li>・ 研究機関の誘致</li> <li>・ 素材や色など計画性をもった景観づくり</li> <li>・ くつろげる芝生広場</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誰でも Welcome な空間</li> <li>・ 世界中の本が読める図書館</li> <li>・ 外国の文化紹介コーナーの設置、イベントの開催</li> <li>・ 村親制度、ゆるいホストファミリー</li> <li>・ 話し合い考える場、セミナーや展示などを継続的に開催し、平和な毎日を目指す</li> <li>・ 知る、学ぶ、つながる機会（本、講演、シンポジウム）</li> <li>・ 自然との共生、バランス、書籍、アート、映像の集合</li> <li>・ 山、川、自然と触れ合える機会</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クリエイティブな考え方と実践</li> <li>・ 住民の活動拠点、地域づくりを学ぶ場</li> <li>・ 官と民の連携</li> <li>・ 白馬駅×カフェ×図書館</li> <li>・ 老人いこいの家</li> <li>・ 地域、地区同士のつながりを考える</li> <li>・ 学童、児童館</li> </ul>

また、全3回の中で、多くの時間を費やして議論されたことには、主に次のような意見が多くありました。

- ・子どもたちの教育の場所として図書館に期待することが大きい
- ・子どもや高齢者を中心に村民の居場所としたい
- ・村内外、国内外との交流を促す施設としたい
- ・白馬らしく環境に配慮した施設としたい
- ・国際色豊かな白馬を象徴するような施設としたい
- ・地域における文化、芸術の価値を高める施設としたい
- ・書店機能をカバーできることを望む

#### (4)機能毎に求められる姿

次に、ワークショップで議論された意見の中で、特に取り上げられた機能に焦点を当てて整理します。

主に、①「交流の場」としての機能、②教育・生涯学習としての機能、③芸術・文化を活用した観光施設としての機能、④医療・健康に関する機能、の4つの機能に分けて整理します。



#### ①「交流の場」としての機能

ワークショップにおいて、機能に関する多様なアイデアが出されましたが、その中でも「交流の場」を望む議論は、全てのグループで取り上げられたテーマでした。交流の対象は、国内外からの移住者や観光客も含めて、幅広く期待する声もありました。

多文化に触れる、語学を学ぶといった機会は、子どもから大人まで多くの人が求めている機能であり、多世代・多様な人々が集まる図書館に適した機能であると言えます。

#### ②教育・生涯学習としての機能

海外からの移住者との交流について、言語の壁によるコミュニケーション不足を心配する声が多く聞かれました。日本語を得意としない生徒がいるという状況や住民の外国語学習ニーズを理解し、図書館における語学教育などのサービスを行うことを検討します。

また、中高生の拠り所となる場が少ないという意見が多く、それを解消できる空間も期待されています。中高生が訪れる場所としても定着するよう、学習にも繋がる企画や学生司書

などの仕掛けも検討します。

その他、白馬村の歴史や自然について知りたいという観光客も多いという意見があったことから、白馬村が持つ山岳の大自然や生態系の研究を目的とする山岳研究所としての機能を期待する議論もありました。

### ③芸術・文化を活用した観光施設としての機能

音楽や美術など、芸術に触れる空間を設けることで、村民の暮らしの質を高めるだけでなく、国内外からの観光客がアウトドアだけではない白馬村の魅力を楽しむ機会を創出することが期待されます。

また、洋書についても、市販の書籍だけを置くのではなく、白馬村の地域に関連するような地域特有の洋書を揃えることを検討します。これによって、白馬村に滞在する国外からの人々や移住者が、白馬村の理解を深めることに寄与すると同時に、バイリンガルで白馬村を読むということは、日本人にとっても、世界と白馬村の繋がりを深めることに寄与する可能性があります。

### ④医療・健康に関する機能

医療的な機能を期待する声も多く、新たな複合施設では、住民の健康管理に寄り添える機能や資料の収集が期待されています。

医療機能の設置場所としては、日常的に容易に利用できる視点で、駅の中や駅そのものが、新たな図書館等複合施設であってほしいという要望もありました。



#### 4. 白馬村図書館施設検討委員会

白馬村教育委員会では、図書館の充実を希望する村民からの要望に応えるために、新しい図書館建設を検討することとしました。検討を具体的に進めるため、平成29年7月に「白馬村図書館施設検討委員会」を設け、新しい図書館のあり方や施設整備について検討を進めました。

図書館施設検討委員会では、「村民が望む図書館像とは何か」ということから検討をはじめ、それを探るために、ワークショップの開催やアンケートの実施により、できる限りの村民の意見を集め、それを基に「白馬らしさが感じられる図書館」について議論を重ね、平成30年10月に「新しい図書館の施設及びサービスに関する報告書」をまとめました。

##### (1) 白馬村図書館施設検討委員会の開催状況

白馬村図書館施設検討委員会は、下記の日程で開催しました。

回	開催日	内容
第1回	平成29年7月25日	検討委員会のあり方、今後の進め方
第2回	平成29年9月27日	白馬村らしい図書館のあり方
第3回	平成29年11月17日	中学校・文化祭等で出された意見の報告
第4回	平成30年2月26日	これまでの意見の整理と集約
第5回	平成30年3月8日	図書館のコンセプトについて
第6回	平成30年6月15日	今後の進め方と報告書（案）について
第7回	平成30年9月13日	求められる機能及び運営等について
第8回	平成30年10月2日	求められる機能及び建設候補地について
第9回	平成30年10月19日	施設の規模及び報告書（案）の最終的な確認



## (2)新しい図書館の施設及びサービスに関する報告書の概要

白馬村図書館施設検討委員会にて検討した結果をまとめた報告書については、次のような概要となっています。

### ①新たな図書館の基本的な考え方

#### (ア) 誰でも利用しやすい図書館

- ・ 幼児から高齢者まで、言語や障がいの有無を問わず、誰もが利用しやすく、快適で居心地の良い施設であること。
- ・ 音に対して寛容な空間と静かな空間をすみ分けること。
- ・ 移動手段や開館時間についても考慮し、多くの人が利用できる施設であること。

#### (イ) 白馬らしさを感じられる図書館

- ・ 自然に囲まれた場所で北アルプスの眺望を楽しむことができ、木のぬくもりが感じられる施設であること。
- ・ 地域資料コーナーを充実させ、国内外からの移住者や観光客に白馬村の文化や歴史を知ってもらうこと。

#### (ウ) 飲食について

- ・ 飲食可能エリアについて柔軟に検討するとともに、障がい者施設など民間委託も検討すること。

#### (エ) その他

- ・ 新たなサービス等に対応できるよう、柔軟な空間の使い方ができる構造とすること。
- ・ 自然エネルギーの活用など持続可能性を高める運営を検討すること。
- ・ 専門職員の配置や職員の資質向上、ボランティアの活用について検討すること。

### ②図書館のコンセプト

白馬村図書館施設検討委員会で検討した結果、白馬村の図書館のコンセプトとしては、次のように提案されました。

白馬村は世界に誇れる雄大な白馬連山に抱かれた山岳資源を所有しており、毎年大勢の登山客やスキー・スノーボード客が訪れています。

図書館施設検討委員会では、白馬村の観光のメインとなる「山岳」という言葉からコンセプトとなるものを検討することとし、図書館が村民一人ひとりの道標となるようにと願い、登山者の道標となる「ケルン」をコンセプトとしました。

図書館が、そこにある資料や集まっている人びとからの情報や刺激によって、日々の仕事や生活の中で抱えた課題解決の一助となったり、とりあえずそこを目指して立ち寄るだけでも何かを得られるような「街中のケルン」としての存在となるよう期待します。

### ③図書館サービス

- (ア) 館内事業（資料の管理・収集・貸出、レファレンスサービス）
- (イ) 館外事業（団体貸出、出張貸出）
- (ウ) 読書教育事業（定例事業、季節事業）
- (エ) 広報事業
- (オ) 学校との連携事業

### ④建設候補地

- (ア) 自然に囲まれ、白馬三山が展望できる場所
- (イ) 駅周辺・学校の近くなど利用しやすい場所
- (ウ) 遠方の人が訪れやすく、車などで立ち寄りやすい場所
- (エ) 近接した土地に余裕がある

以上の立地条件を踏まえ、以下の場所を候補地として推奨しています。

#### ○図書館施設検討委員会による建設候補地

現白馬村子育て支援ルーム敷地（地番：白馬村大字北城 6938 番地ほか）

※ 赤枠が村有地（6938 番地面積 4249.89 m<sup>2</sup>、6940 番地 1 面積 293 m<sup>2</sup>）



ただし、敷地に面した道路が狭いことから、多くの車両の往来を想定して道路整備を行い、施設規模に応じて周辺の土地の取得も検討する必要があります。また、現有する子育て支援ルームとの調整が必要となり、木流公園の敷地も有効利用することも併せて検討します。

#### ⑤施設規模

以下のとおり算出しました。

人口	延べ床面積	蔵書冊数	開架冊数	職員数
8,900 人	1,180 ㎡	74,470 冊	54,284 冊	7 人

※ この数値は「公立図書館の任務と目標」（日本図書館協会図書館政策特別委員会 2004 年 3 月改訂）の計算方法にて算出しました。この計算は平成 30 年 4 月 1 日時点の村の人口（8,947 人）を基準としています。

#### ⑥その他の検討事項

- (ア) 子連れでも気軽に利用できるよう、一時預かり等の機能を検討すること。
- (イ) 子どもと一緒に、または高齢者にも利用しやすいようなカフェを検討すること。
- (ウ) 多目的室など日常的に使用しない場合は、一般への開放を検討すること。
- (エ) 開架図書スペースで閉架図書のリストも閲覧できるように工夫すること。
- (オ) 「静かにする場所」というイメージを払拭し、「音」、「飲食」、「遊び」等に配慮すること。

## 5. 複合化の候補となる既存の公共施設

白馬村では、今後の人口動態や財政状況を踏まえ、総合的かつ長期的な観点から施設の有効活用や適正配置、適切な維持管理等、公共施設のあり方及びマネジメントに関する基本方針を定めることを目的として、平成29年3月に「白馬村公共施設等総合管理計画」を策定しました。

公共施設等の将来的な更新にかかる財源が明らかに不足することは明確であり、各公共施設について、耐震化・長寿命化や統合・廃止に加えて、多機能集約化（1つの公共施設に複数の機能を盛り込み、スペース効率の改善と機能間の連携性を高める取り組み）を進めていくことを方針としています。

### (1) 公共施設等総合管理計画における各施設の基本的な方針

#### ① 図書館の基本的な方針

耐用年数は未到来であるものの、利用者から新設の要望が多くあり、子育て施設や社会教育施設など他の公共施設との複合化の可能性を含め、適正な図書館機能のあり方を検討するとともに、白馬村にふさわしい図書館のあり方を住民参加で作り上げていくこととしています。

#### ② 幼児・児童施設の基本的な方針

子育て支援ルームは既に耐用年数を超過しているため、利用状況や住民ニーズを鑑みて、子育て支援の拠点として社会教育施設等との複合化を含め、早急に今後のあり方を検討していく必要があるとしています。

### (2) 庁内における検討

新たな図書館等複合施設の建設にあたり、図書館施設検討委員会やワークショップ等の意見を踏まえ、「白馬村公共施設等総合管理計画」に基づく既存の各公共施設の耐用年数・老朽度や基本方針、図書館との親和性、新たな図書館等複合施設を活用して推進すべき村の施策等について、庁内会議で総合的に検討しました。

結果として、以下のとおり子育て支援施設との複合化が望ましいという方針を示しました。（他の公共施設も含めた一覧表は資料編に掲載しています。）

施設名称	延面積 (㎡)	建築 年度	構造	耐用年数 到来年度	老朽化 緊急性	図書館 との 機能的 親和性	総合
図書館	351	S62	鉄筋 コンク リート	H49	—	—	◎
子育て 支援ルーム	1,195	S50	鉄骨造	H21	○	○	◎
白馬北小学校 放課後 児童クラブ	96	H5	鉄骨造	H39	△	○	○

## 6. 白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議

アンケート、ヒアリング、ワークショップ、図書館施設検討委員会では、主に白馬村の住民を対象として意見を収集してきましたが、専門的な視点からの意見を得るために、「白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議」を設置し、議論を重ねました。

### (1) 白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議の開催状況

白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議の開催については、次の日時及び内容で実施しました。

回	開催日	内 容
第1回	平成30年8月30日	白馬村の概要と白馬村図書館の現状及び検討経過、基本構想策定に向けた今後の進め方等
第2回	平成30年10月25日	同規模自治体の事例、複合化する公共施設の候補、複合化に併せて魅力を高める機能・施設について
第3回	平成31年1月17日	複合化に併せて交流を生み魅力を高める機能・施設について
第4回	平成31年2月13日	子ども・子育て支援施設整備と複合施設の検討 これまでの議論のまとめ



## (2)白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議委員名簿

白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議委員の構成は、次のとおりです。

分野	氏名	所属	備考
図書館	糸賀 雅児	應義塾大学 名誉教授	会長
山岳	松沢 貞一	株式会社白馬館 代表取締役社長	副会長
教育	奥田 純子	北陸大学経済経営学部マネジメント学科 助教	
子育て	多田 千尋	NPO 法人 芸術と遊び創造協会 理事長	
アート	岡田 勉	スパイラル/株式会社ワコールアートセンター シニアキュレーター	
交通	大日方 悦夫	日本旅客鉄道株式会社 長野支社 白馬駅長	
ホール	中澤 宗幸	株式会社日本ヴァイオリン 創業者顧問	
マンガ	山内 康裕	マンガナイト/レインボーボード合同会社代表	
検討委員会	富山 正明	白馬村図書館施設検討委員会 委員長	

## (3)有識者会議における主な論点

### ①第1回有識者会議

初回の会議では、白馬村の概要と白馬村図書館の現状及びこれまでの検討経過を共有した上で、「基本構想策定に向けた今後の進め方」を主な論点としました。第1回で議論した結果、次のような意見や方向性が出ました。

- ・有識者会議のあり方として、ネットワークをどのように広げるか、行政・民間等を巻き込んだプロデュース計画を行っていく。
- ・機能の検討については、昨年度に実施したリサーチやワークショップを元に構成し、図書館が中心にあるが交流センターという考え方を念頭に議論する。
- ・コミュニケーションの中にマンガがあるということで賑わっている施設がある。マンガは敷居を下げる効果があり、図書館に足を運びやすくなる。ただし、ネガティブな意見も出やすく、住民の理解には時間はかかる。
- ・図書館然としたものより図書館らしくないものを徹底的に作った方が良いのではないか。例えば、カフェと思って来たら本がたくさんある、交流センターと思って来たら読書している人が多い、など。
- ・目指すのは地域に負担をかけないこと。多少でも稼げる施設の方が良い。
- ・施設をつくるのが目的であればつくらない方が良い。ソフトの魅力、情報発信力が重要であり、それらをあらかじめ盛り込む形で計画を推進すべき。
- ・図書館というと勉強に行く、来館者を待つ場所となってしまうので、積極的に外に出ていく仕組みを盛り込みながら取り組んでほしい。
- ・隠れた資産はもっとあるはずであり、ブランディングのような眼差しを持って取り組む必要がある。
- ・2020年オリンピック・パラリンピックに向けた国の支援も視野に入れながら計画してはどうか。2020年度中に何か具体的なアクションを起こさない手は無いのではないか。
- ・国内の大使館や文化機関を活用することも視野に入れてはどうか。
- ・観光の村だが、文化的なことが置き去りにされてきた印象がある。
- ・外国人サービスは言語対応だけでなく、多文化・異文化の双方向性として考えるべきである。
- ・維持費で一番かかるのは人件費であり、職員体制をどうするか。
- ・施設整備をきっかけに学校図書館との連携を密にできるのではないか。例えば、小中学校の図書室との連携、司書の交流も可能ではないか。
- ・不登校やいじめにも関係した居場所にもなり得る。
- ・財源の出所に関わらず図書館法に則った図書館をつくることは可能。図書館法に則らないものも可能。



## ②第2回有識者会議

第2回の会議では、同規模の自治体の図書館等複合施設の事例を共有した上で、主な論点を「複合化により魅力を高める機能・施設について」として議論しました。第2回で議論した結果、次のような意見や方向性が出ました。

- ・白馬村らしさに重きをおき、白馬村に関する資料の収集・活用など白馬村のことが分かることを柱にしたい。
- ・住民に利用していただかなければ意味がないので、敷居を低くして立ち寄りやすくする。
- ・飲食施設など自由な発想で多くの意見を網羅的に入れており、住民の希望を最大限取り入れたものにしたいと考える。
- ・母親からの期待が大きく、子育て世代が気軽に来られる図書館にしたい。
- ・複合化の際に、用途や組合せなどに応じて既存施設の転用、改修、集約、縮小、撤去等の可能性はある。
- ・新しい価値を生み出すようなものも含めて検討したい。
- ・音楽家が設計したホールと録音ができる部屋があると人が集う。
- ・山岳や自然環境が差別化要素となる。山岳や自然の事を学べる場にすることを検討する。
- ・各世代や観光客も含めて、居場所を提供することは大切である。
- ・スポーツの価値が変わり、文化やエンターテインメントと近くなっているので、図書館との関係も可能性がある。
- ・移住定住を促進するのであれば、利便性などが重要で、観光振興を目的とするのであれば、エンターテインメントが大事である。どちらにしても「居場所」は共通項でもある。
- ・図書館までの移動価値をどう高めるかも必要。図書館に来るストーリーをどう作るか。
- ・スポーツ、観光、音楽、芸術、文化に加えて、生涯学習という視点も重要。
- ・ランニングコストなど運営面も非常に重要。収益を上げる方策も必要ではないか。
- ・図書館本来の機能を見失ってはいけない。ベースにあるのは住民であることを忘れてはいけないし、そこから様々な交流が生まれる。
- ・子育てなどを支援する施設であってほしい。
- ・地域の人の健康と大きく結びつく可能性があり、健康福祉課関連施設も関係してくる。

### ③第3回有識者会議

第3回の会議では、ワークショップのまとめを共有した上で、主な論点を「複合化に併せて交流を生み魅力を高める機能・施設について」として議論しました。第3回で議論した結果、次のような意見や方向性が出ました。

- ・「交流」のイメージは、「気軽に立ち寄り話をする場所」である。
- ・海外からの移住者も含めた住民の交流、観光客と住民との交流も地域にとってはメリットがある。
- ・高校生の時に地域の仕事を知っていて、地域への愛着がある人ほどUターン希望の割合が高くなると言われている。教育的な交流という観点で、子どもと大人をつなぐ場であってほしい。
- ・老朽化した施設の寄せ集めではなく、理想的な子育て実現するための施設、という姿勢が必要。議論の中で子育て支援の要素を強化するべき。
- ・節約型の施設にするのか、ある程度の予算をかけてでも受益者負担なども含めて、ランニングコストをある程度まかなえる施設にするのか。
- ・施設までのアクセス、交通という面も考える必要がある。
- ・子育て支援と図書館の複合化だけでは独自性が出ない。財源面を考慮すると独自性をいかに発揮するかが大切で、それによって稼ぎ、持続的に運営できる施設になる。
- ・白馬村はアートとの親和性が高い。オーストラリアなど外国との芸術面での連携なども可能である。
- ・長野からのバス利用が多いものの、駅には鉄道が停まる機能だけではなく人と情報が集まっていた歴史がある。駅をうまく活用することを考えても良いのではないか。
- ・図書館は年齢層の幅が広く、利用頻度の高い人がいるために交流は生みやすい。ただし、交流を生むには仕掛けが必要で、全国的にはおしゃべりできるカフェが多く、一定の効果がある。
- ・音楽、芸術、スポーツなどは言語の壁を乗り越える交流手段となる。白馬村にはスポーツは既にあるので、アートが入ってくれば新たな交流が期待できる。
- ・イベントやセミナーなどの企画によって情報発信もできる。実施するには人財が必要であるが、参加者同士の交流も生まれる。
- ・図書館の利用者は多種多彩で幅広く、一方で子育ては地元確実に需要があるので、次世代の人財を育てるという観点では子育て支援と図書館の組み合わせは良い。
- ・全国的にコミュニティ・カレッジが増えている。地域の人が白馬村のことを学べる場や企画が継続されることで人財が育ち、付加価値を産み出す施設になり得る。

- ・地域に外国人は多くいるものの、子どもたちと交流する機会が少ない。言語や多文化を学べる場があると良い。
- ・小中高の学校図書館との連携は考えていくべきである。例えば学校の図書委員が村の図書館で就業体験できれば、子どもにとって外国人も含めた大人との交流の場になる。
- ・図書館はいろいろな舞台になり得る。健康相談などの医療関連の仕掛けも可能である。
- ・東京おもちゃ美術館では、ボランティア（おもちゃ学芸員という名にしている）の育成に力を入れている。登録 340 人。全員が NPO 法人の正会員でもあり、講習会を受けるのも制服を買うのも有料。年間のべ 5,000 人が活動し、施設のホスピタリティを支えている。
- ・計画段階からいかに住民を巻き込むかが重要である。つくる前の段階から住民に参画してもらえば、住民を巻き込んだ運営にも繋がると考える。
- ・ボランティアではなくて、サポーターという考え方もある。力を出す人とお金を出す人がいて良い。全国的には雑誌サポーター制度というものがある。企業や施設、個人の出資でも良い。「友の会」とすれば、会員同士の交流も生まれる。子どもはお金を出せないが力を出せるし、それが交流や勉強にもなる。

#### ④第 4 回有識者会議

最終回となる第 4 回の会議では、これまでの会議で出された意見の集約に向けて議論しました。第 4 回で議論した結果、次のような意見や方向性が出ました。

- ・資料保存については、新たな図書館において必須条件である。保存管理期間、保存場所が現段階では確定されていないので、これを機会に明確にしてほしい。
- ・スキーや山岳、長野冬季オリンピック等の資料は、白馬村を知る上で貴重な資源であることから、今回の複合施設において、収集・保存・提供機能を持たせることは必要であると考えます。
- ・図書館の附帯機能として、国際共通語でもある音楽の活用を考えてほしい。音楽が活用できれば、楽譜という世界の共通言語で、新たな交流を生み出すことも可能と考える。音楽を用いた図書館の活動は、他の自治体でも見受けることができる。今回の複合施設内でのコンサートなどは一考の価値がある。
- ・マンガ図書館やアートスペースについて、村外からの誘客を見込むのであれば、500 m<sup>2</sup>以上の広さが必要となる。あらゆる機能を盛り込んで全てが中途半端にならないよう留意する必要がある。
- ・海外からのお客様を含め大勢の人々が利用する駅機能の活用も考慮してほしい。

- ・ 複合施設の柱でもある「交流」という観点からみて、図書館ほど最適な場所はない。本、雑誌、新聞を読むために、人々が集まる場所であるし、音楽やアートにおいても、交流手段となる。言葉は通じなくても、音楽、スポーツの分野では、誰もが交流ができる。そういった仕掛けを施設として持つべきであり、交流を促進するためには座席をどこにどの程度配置するのが重要となる。
- ・ 施設としては、「知る」、「学ぶ」ということが主体となるが、本を借りて返すだけの場所ではなく、館内で「調べ」て、十分な満足感を持って上で帰っていただく「滞在型の施設」を目指さなければならない。
- ・ コンセプトの設定が重要。
- ・ インキュベーションについても検討するべき。
- ・ アート分野では、芸術祭やフェスティバルの開催を検討してほしい。
- ・ 司書や学芸員など専門家を育成することも検討してほしい。
- ・ 東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、白馬村への観光客動員と、駅舎などを利用して、村を挙げての白馬村紹介などを行えば、村民と観光客の顔が見える関係づくりに繋がることにならないだろうか。
- ・ ある自治体では、図書館が入っている施設で、曜日単位で各診療科、健康チェックなどを実施している例がある。図書館に来る時、気軽に医療相談や健康相談をしてもらう仕組みを取り入れてみることも良いのではないか。
- ・ 建設地の決定までのプロセスは重要であるので、時間を十分かけて、しっかりとした合意形成を作るよう慎重に進めることを願う。
- ・ 予約した本を受け取ることができ、返すこともできる「サテライト・ライブラリー」を村内に複数箇所設置するのも方法の一つである。それが、学校や公共施設という場所であっても良いのではないか。学校図書館を利用すれば、学校司書の人とも繋がりができ、図書館と学校図書館との連携の実現も可能となり、白馬村独自の新しい図書館サービスができるのではないだろうか。都市部では実現不可能なサービスを、ぜひ白馬村で実現してほしい。

#### (4) 有識者会議のまとめ

全4回の有識者会議において、様々な意見が出された中でも、村内外、国内外から訪れた人々が集い、出会うことのできる「交流型」の施設とすること、そして、そこでアートや音楽に触れたり、中高生などの若者も居場所として過ごしたり、白馬村の情報を充実させることで、長く過ごせる「滞在型」の施設とすることの重要性が議論されました。

有識者会議での議論を踏まえて、白馬村では、「交流」と「滞在」を重視した新たな図書館等複合施設の実現のために、図書館としての機能の充実、白馬村らしさを活かした施設のあり方、附帯する機能の検討などを、今後の基本計画策定に向けて進めていきます。

## 第3章 新たな図書館等複合施設の基本的な方針

白馬村では、新たな図書館等複合施設の整備に向けて、様々な場で住民の声を聞いて求められている機能を探るとともに、既存の公共施設で複合化の可能性が高いものを検討してきました。

本章では、これまで検討されてきた内容を踏まえて、白馬村の基本的な方針としてまとめます。

### 1. 基本的な方針

現在の図書館施設では、面積的に拡張することが難しく、本の貸出しだけでなく、閲覧席の数や蔵書の慢性的な不足など、図書館としての基本的なサービス及び多様な機能が十分に提供できていません。新たな交流拠点となる施設が住民から求められることも鑑み、多くの人が集うことで相乗効果が得られるような複合施設として、現在とは別の場所に新設することを目指します。

#### (1) 複合化する既存の公共施設

新たな図書館等複合施設の建設にあたり、図書館施設検討委員会やワークショップ等の意見を踏まえ、「白馬村公共施設等総合管理計画」に基づく既存の各公共施設の耐用年数、老朽度及び図書館との親和性、さらには新たな複合施設を活用して推進すべき村の施策等を総合的に検討した結果、以下の子育て支援施設との複合化を基本方針とします。

施設名称	床面積	建築年	耐用年数	備考
白馬村図書館	351 m <sup>2</sup>	S62	H49	施設が小さく、提供できるサービスに限られ、交流を創出するような新たな事業を実施する余裕がない状況です。
子育て支援ルーム	1,195 m <sup>2</sup>	S50	H21	平成19年に統合された旧中部保育園を後利用していますが、耐用年数を経過し耐震的にも不安があり、複合化の最優先施設と位置付けています。
白馬北小学校 放課後 児童クラブ	96 m <sup>2</sup>	H5	H39	ふれあいセンター3階で教育委員会事務局と併存していますが、スペースや音の問題もあり、複合化することで放課後の学びの充実が期待されます。

## (2) 交流を生み魅力を高める機能の検討

新たな図書館等複合施設の建設にあたり、多様な人々の交流を創出し、関連付けることで高い相乗効果を生み出す機能及び運営費の軽減に寄与する収益化が見込める機能等について、有識者会議を中心に検討しました。

それぞれの機能の詳細は第4章に記載しますが、次年度以降に民間事業者の活用も含めて各機能の可能性を調査し、併合する機能を絞り込んでいきます。

## 2. 施設規模

白馬村に求められ、かつ、村の規模等にも理にかなっている施設規模について検討しました。

### (1) 図書館機能の規模

図書館施設検討委員会において、以下のとおり算出しました。

人口	延べ床面積	蔵書冊数	開架冊数	職員数
8,900人	1,180 m <sup>2</sup>	74,470冊	54,284冊	7人

新たな図書館等複合施設内に多目的スペースを設け、イベントや交流の場として利用するためには、必然的に図書館主催の新たなサービスを行わなければなりません。その場合、上記職員数で対応するのか、それとも必要に応じて職員を増員するのか、図書館の運営面も含めて引き続き検討します。

また、外国人を対象とした多言語サービスも検討が必要となります。冬季には、スキーなどを目的とした観光客の増加だけでなく、白馬で働くために来村する約700人の外国人が一時的に居住することとなり、これらの人々も快適に過ごせるよう、館内の案内なども含めて多言語による表示が求められます。

さらに、「多様であることから交流し学びあい成長する村」の実現に向けて、外国人にも配慮した施設として整備し、白馬村の歴史や文化を学ぶ場を提供するとともに、各国の文化や価値観に触れ、視野が広がる交流が生まれるよう、必要な機能の検討が必要です。

同時に、降雨・強風など悪天候時には、多くの人たちが集える場所となるよう配慮することも求められています。

## (2) 子育て支援機能の規模

子ども・子育て支援機能については、各種事業を実施する上で以下の諸室が必要と見込まれます。利用時間帯が異なるものについては、可能な限り併用することとし、用途を各機能に固定せず、多目的に利用できるよう配慮します。

	広場 スペース	遊戯室	子ども 図書室	児童室	保育室	相談室	静養室	ホール
子育て支援センター	○	○	○		○	○	○	○
相談事業					○	○		
各種教室		○			○			○
一時預かり		○			○		○	
放課後児童クラブ				○			○	○
児童館	○			○			○	○
読み聞かせ広場			○					
屋内型広場機能		○						○

※全ての機能を新たな図書館等複合施設において取り入れるとは限りません。



現状及び将来の子どもの数の予測を考慮し、必要と見込まれる諸室の面積を以下のとおり算出しました。

子ども・子育て支援機能	諸室	面積 (㎡)
子育て支援センター (子育て支援拠点事業)	広場スペース	80
	遊戯室	56
	相談室 [二部屋]	56
	静養室 (おむつ替えコーナー含む)	25
各種教室	保育室	40
一時預かり (休日含む)	保育室	40
	乳児・ほふく室	49.5
放課後児童クラブ	児童室	80
	静養室	20
児童館	児童室	80
	静養室	30
屋内型広場機能	ホール	220
合計		776.5

※上記には、通路やトイレ等の共用部分及び事務室は含まれていません。

諸室の積算根拠は、次のとおりです。

子ども・子育て支援機能	諸室
子育て支援センター (子育て支援拠点事業)	広場スペース 80 ㎡ (活動スペースとして想定) 広場スペースとしては、10 組の親子が一度に利用しても差し支えない程度以上の広さ
	過去利用者 年平均 12 組 想定 25 組 × 3.3 ㎡
	遊戯室 56 ㎡ 20 名
	相談室 [二部屋] 28 ㎡ × 2 56 ㎡ 福祉相談室 4.8m × 6 m
	静養室 (おむつ替えコーナー) 25 ㎡ 15 組
各種教室	保育室 40 ㎡

一時預かり（休日含む）	保育室 40 m <sup>2</sup> 20 人 乳児 ・ ほふく室 16.5 m <sup>2</sup> + 33 m <sup>2</sup> 49.5 m <sup>2</sup> 2歳未満児 乳児室 1.65 m <sup>2</sup> /人 ほふく室 3.3 m <sup>2</sup> /人 2歳以上児 保育室又は遊戯室 1.98 m <sup>2</sup> /人
放課後児童クラブ	児童室 80 m <sup>2</sup> （登録者最大 47 名の為 *1.65 m <sup>2</sup> ） 静養室 20 m <sup>2</sup> （一人当たり、1.65 m <sup>2</sup> 以上。また、休息できる静養スペース）
児童館	児童室 80 m <sup>2</sup> （参考：飯山市 81.31 m <sup>2</sup> ） 静養室 30 m <sup>2</sup> （20 名まで利用できるように想定） 小型児童館：要件として、集会室、遊戯室、図書室及び事務執行に必要な設備、その他相談室、搜索活動室、静養室及び児童クラブ室を設けること。最低限、遊戯室、図書室及び児童クラブ室は必要な広さは最低 217.6 m <sup>2</sup> 以上 児童センター：上記に加えて、336.6 m <sup>2</sup> 以上 遊戯室には体力増進指導を実施するための機能が必要
屋内型広場機能	220 m <sup>2</sup> （参考：飯山市 202.47 m <sup>2</sup> 、松川村 150 m <sup>2</sup> ）

なお、上記諸室は子育て支援施設単独で整備した場合を想定しており、図書館等複合施設として整備する諸室において併用可能なものについて、今後さらに検討を進めます。

### (3) その他機能の規模

図書館機能及び子育て支援機能以外については、次年度以降の基本計画策定の中で機能を絞り込み、規模についても検討していくこととします。

なお、機能の数と規模の比率は重要であり、一機能につきある程度の規模を確保することにより、各機能が中途半端なものにならないよう留意する必要があります。

### 3. 建設候補地

図書館施設検討委員会において提案された建設場所も含めて、複合施設としての機能を配慮し、十分な時間をかけて候補地を選定する必要があります。

現時点では、白馬北小学校の放課後児童クラブとしての機能を考えると、白馬北小学校周辺や白馬村役場周辺、JR白馬駅周辺が有力な候補となりますが、新たな図書館等複合施設が担う機能をさらに精査した上で、基本計画策定の中で建設候補地を決定します。

## 第4章 新たな図書館等複合施設の機能の検討

新たな図書館等複合施設の機能について、これまでに実施してきたアンケート、ヒアリング、ワークショップ、図書館施設検討委員会、有識者会議等において、機能に関して様々なアイデアや意見が出されました。

本章では、それぞれから出された多くの意見の中でも、共通して挙げた問題意識や希望を踏まえて、それらを結ぶ「新たな図書館等複合施設のコンセプト」を掲げ、これを基に新たな図書館等複合施設に「欲しい機能」、あるいは「必要な機能」についてまとめます。

### 1. 図書館の目指す姿

これまでに住民の皆さんから出されたアイデアや意見と、専門的な視点から議論してきた有識者会議での意見を踏まえ、新たな図書館等複合施設の基本的なコンセプトを次のようにしました。

「多様な創造性と出会い、豊かな未来へ誘う道しるべ」



## (1)新たな図書館等複合施設のコネプト

これまでに関わっていただいた皆さんから出された意見として、特に多く、重視されていた内容としては、村内外・国内外問わず、白馬村を訪れる多様な人々が集い、出会い、交流し、学ぶことのできる場所であってほしいということでした。

そして、今を生きる私たちが、「本」、「アート」、「音楽」をはじめ、多様な文化と交流する居場所づくりをすることで、未来を担う子どもたちが、豊かな白馬村を創造することのできる拠点として、集い続け、愛され続ける施設となってほしいという願いを込めています。

また、図書館施設検討委員会でも、図書館に「街中のケルン」というコンセプトを生み出しました。今回は、図書館に加えて複合化される機能も含めた図書館等複合施設として、多様な出会いから多様な創造が生まれること、そしてそれが白馬村の自然や文化を継承しながらも発展していくケルン（＝道しるべ）となることを願い、「多様な創造性と出会い、豊かな未来へ誘う道しるべ」としました。

## (2)「滞在型」、「交流型」の施設

上記のコンセプトに加えて、有識者会議でも重視された「滞在型」の施設であるということと、「交流型」の施設であるということの2つを大事な柱の視点とします。

### ①「滞在型」の施設

「知る」、「学ぶ」ということを主体としながら、本を借りて返すだけでなく、館内で「調べ」て、十分な満足感を持ち帰ることができる「滞在型の施設」を目指します。

「知る」、「学ぶ」、「集う」ことで、新しい白馬村の施設の便利さや有効性を直に感じてもらうのが、この施設の目的となることを検討します。

### ②「交流型」の施設

図書館は、多様な人々が集まる場所であり、これまでに様々な場で意見が出された、複合施設の柱でもある「交流」という観点においても最適な場所と言えます。交流を促進するという視点で、座席の配置や導線を重点的に検討し、村の基本理念である「多様であることから交流し学びあい成長する」を具現化する拠点となるべく、交流の仕掛けを設けます。

### ○音楽やアートによる交流

音楽やアートを交流の手段とすることで、言語の壁を越えた新たな交流の可能性を検討します。

### ○中高生の居場所・活動拠点

中高生の放課後の居場所がないという声が多く挙がっているため、学校外における思考や実践の場として、中高生の居場所・活動拠点としての位置付けを重視するとともに、若者たちへの様々な機会提供の場、出会いの場、交流の場として機能することを目指します。地域の多様な人々との交流により、学校でも自宅でもないサードプレイスとしての役割を探ります。

## 2. 図書館に求められるサービス

次に、新たな図書館等複合施設に求めるサービスとして、これまでの収集した意見等を踏まえて、次の7つを挙げます。

### (1)「地域の仕事を知る」事業展開

中高生に対して、地域の仕事を知る機会を十分に提供できているとは言えません。生まれ育った地域から進学や就職などで離れていったとしても、中高生の時に地域にどんな仕事が存在するかを知り、地域への愛着がある人ほどUターン希望の割合が高いと言われていています。

中高生だけでなく、移住者や移住希望者も含めて、白馬村のことを知り、地域を想う気持ちを育むことで、人の好循環を生み出すことを目的として、地域でどんな人たちがどんな仕事をしているのか、図書館を中心として「地域の仕事を知る」事業展開を目指します。

### (2)多世代・多言語の新聞・雑誌等のサービス

図書館は、多文化・多世代へのサービスを行います。その点から、多言語の新聞などのサービスや多様な経歴の人々について情報を吸収できる場とします。

また、毎日来館するリピーターを育てていくような交流ができる場所とします。

### (3)子育て支援としての図書館(子ども図書室)

図書館機能と子育て支援機能との高い相乗効果を生み出すために、白馬村の子育て支援の拠点施設として、子どもたちの居場所づくりや健全育成の推進、子育て家庭の相談等における交流の場づくりが行える複合施設の整備に向けて、基本的な考え方と方向性を整理・検討します。

### (4)ネットワークシステムの活用

建設場所によっては、図書館から離れた場所に住む利用者が足を運ばなくなる可能性も考えられます。そのため、ネットワークシステムで予約ができ、資料が自宅や家の近くまで配達ができるなどの宅配サービスを検討します。

### (5)地域住民が世代を超えて学ぶ場

図書館は、子どもから高齢者までの幅広い世代が利用する場であることから、ある一定層の人たちが集まる「カルチャースクール」ではなく、白馬村のことを考え、行動できる人を育みながら、地域の人たちと一緒に中高生が白馬村のことについて学べる場として、継続性を持って世代を超えた学びができる、真の意味での「コミュニティ・カレッジ」を検討します。

コミュニティ・カレッジが実現すれば、高い付加価値を生み出し、白馬村として子育てや教育に力を入れていることが国内外に発信できます。

### (6)地域資料の保管・活用

白馬村に関する資料の保存及び管理については、地域の重要な資源であるものの、現在は保存及び管理に関するルールが明確でない上、保存場所が確保されていません。資料の保存及び管理だけではなく、活用についても方針を立てて検討します。

特に、スキーや山岳、民宿等に関する資料、長野冬季オリンピックの資料などは、白馬村の歴史や文化を知る上で貴重な資源であることから、複合施設において、収集・保存・提供機能は持たせることが必要であり、映像も含めたデジタルアーカイブについても検討します。

### (7)人材育成と起業支援

司書や学芸員などの専門家を育成することに加えて、施設やイベントの企画、運営、ボランティアなどの多様で幅広い人材の確保と育成が求められます。

さらに、村内の空き家や未利用土地、観光閑散期のポテンシャル、新たなニーズ・観光資源などの隠れた資産・資源を掘り起こし、それらを紹介するコンシェルジュ機能を持つなど、村外からの起業希望者の流入を促し、活性化を図ることで、起業や新規事業の創出を支援するインキュベーション機能についても検討します。

東京オリンピック・パラリンピック開催という好機に合わせ、駅舎等の既存の施設を活用しながら、新たな図書館等複合施設の PR、ニーズの調査を兼ねた各種イベントの開催も有効と考えられます。開館以前から試行的に事業を実施し、多様な雇用や人々の関わり方を創出することを目指します。

## 3. 子育て支援施設との連携

新たな図書館等複合施設において、未来を創る子どもたちを健やかに育むことを目指し、子育て支援機能のあり方について、さらなる検討を進めます。

「白馬村子ども・子育て支援事業計画」では、「子どもたちの幸せ育てる白馬村」を基本理念に掲げ、①子どもへの支援、②子育てをする親（保護者）への支援、③地域全体による支援、④「ワーク・ライフ・バランス」の実現への支援、⑤白馬村の風土や社会資源を活かした支援、の5つの支援を基本的施策として、各種事業を展開することとしています。

新たな子育て支援施設は、これら基本的施策を、より効率的・効果的に実施できるようにすることとし、新たな図書館に併設した多機能型複合施設として整備することにより、これを中核施設として、子どもの健やかな育成、白馬村全体の子育て力の向上、子ども・子育てを中心に据えた明るく元気なむらづくりを推進します。



## 4. 健康・医療との連携

意見収集でも、白馬村の課題としても挙がっていた医療面について、新たな図書館等複合施設と連携できるのではないかと想定される点として、次の3つを検討していきます。

### (1) 健康相談等

図書館施設において、曜日単位で各診療科・健康チェックなどを実施している例があるように、多様な人々が来館する施設であるからこそ、気軽に医療相談や健康相談をしてもらう仕組みを取り入れることを検討します。

### (2) 他の行政サービスとの連携

小児科・産婦人科等を含めた医療・福祉施設との連携について検討します。白馬村では、平成30年度から、小児科、産婦人科の相談窓口として、インターネットを活用した「小児科オンライン」及び「産婦人科オンライン」のサービス提供を始めていますが、今後もさらなる連携を検討します。

### (3) 医療健康情報サービス

全国の図書館において、医療健康情報提供サービスを行うところが増加しています。これは、家庭医学、医学書の情報を、図書館司書が調べ文献などを提供するサービスです。医療そのものではありませんが、病について、家族も含めて知ることにより、医療機関での相談や治療の際に、非常に役立っているという実績があります。医学以外でも、法律相談や教育相談など他の分野でも同様です。図書館資料を利用し、予め知識を備えた上での相談は、とても効率的であるため、住民を中心とした利用者を対象に、医療健康に対するレファレンスサービスの充実も検討します。

## 5. 交流を生み魅力を高める機能

### (1) アートスペース

新たな図書館等複合施設の整備を検討するにあたり、多世代、村内外、そして、国内外の新しい交流の創出を目的として、アートを取り入れる視点を検討してきました。今後検討すべきアートに関する内容について、次の4つにまとめます。

#### ① 各種イベントの開催

新たな図書館等複合施設では、スポーツ、観光、音楽、芸術、文化といった視点、さらに、芸術祭やフェスティバルの開催を検討します。白馬村らしいイベントを開催することで、施設の位置付けを、「来館者を待つ場所」でなく、「イベントなどを通して積極的に外へ呼びかけ、地域のつながりを生み出す場所」とすることを検討します。

#### ② 施設に頼らないアートの可能性

新たな図書館等複合施設が建設されてからではなく、建設前から機会を捉えてイベントを開催することで、新しい施設への期待と文化・芸術による村の新たな方向性を村民や観光客に示すことを検討します。白馬村でしかできないことへの関心を高める機会の創出と考えます。

#### ③ 白馬に縁のある芸術系の団体との交流

地域内に、有名作家を輩出している東京芸術大学の山岳部の山小屋が存在します。山岳部出身の作家たちが残した「旅の手帖」（自由記載のノート）があり、有名作家たちの若い頃の絵が描かれています。それはこれまで、広く知られているものではありませんでした。そのようなこれまで隠れていた資源を掘り出して光をあてることも模索します。

#### ④ アーティスト・イン・レジデンス

移住者や白馬村を訪れる観光客の中で多くを占めているオーストラリアを中心に、大使館等と連携しながら、一定期間白馬村に滞在しながら作品制作を行ってもらう「アーティスト・イン・レジデンス」により芸術家の誘致や交流を促進していき、アート作品を資産として活用することを検討します。

## (2)マンガ図書館

最近では、マンガ専門の図書館もできており、教育的な効果も高いとされているマンガの選書も重要とされています。そのため、マンガ図書館の要素も取り入れながら、機能として検討していきます。

地域に縁のある著者の作品やスキーなどの白馬村に関連するマンガの選書など、床面積に応じて、コーナーとして設置する可能性も含めて考えます。

マンガ図書館を検討するにあたり、地域外から人を呼び込もうとする場合には、500㎡以上の広さの確保が必要と考えられます。

## (3) 附帯施設

新たな図書館等複合施設では、図書館を基本としながら多機能を持ち合わせる施設を目指していくこととしますが、機能として盛り込むべきではないかと検討される内容を整理すると、次のとおりとなりました。

### ①音楽イベント等を実施するホール

新たな図書館等複合施設において、国際共通語とも言える音楽の交流は、高い効果が期待されます。「楽譜」というユニバーサルな共通語を用いて人々の交流を創出するための200席程度のホールについて、活用の可能性を検討します。

### ②国際会議等に対応するコンベンションホール

人々の交流から生まれる付加価値や新たなネットワーク構築による共創力向上を目的として、MICE\*や研究機関の誘致などが可能となるようなコンベンションホールについて、活用の可能性を検討します。

\*MICEとは…

企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。

### ③カフェ等の飲食サービス

気軽に立ち寄り会話を楽しむための付加価値機能として検討しますが、独立採算制を原則とします。

## 6. 交通アクセスについて

電車の乗降機能だけではなく、国内外からの観光客を含め大勢の人々が利用し、人や情報が集積される「駅」機能の利活用を検討します。

最近では、駅の中に図書館の分館を設置する事例も増えてきていることから、駅で本を借りることや返すことができるよう、観光客を主なターゲットにした図書館機能も検討します。

## 第5章 建設・運営に向けた今後の検討

基本構想に基づき、新たな図書館等複合施設の建設及び運営に向けて、各機能のあり方や規模、運営等の詳細について検討を進めながら、基本計画にまとめていきます。

本章では、今後のスケジュールと具体的に検討していく内容についてまとめます。

### 1. 基本計画の策定に向けて

これまでに挙げた、新たな図書館等複合施設に求める機能については、様々な視点やニーズから整理したのですが、これらの機能を全て実現させることができるかどうかについては、必要な規模や財源の確保等の課題を含めて精査する必要があります。

最終的には、次年度に策定する基本計画において、新たな図書館等複合施設に盛り込む機能を取捨選択し、サービス内容も充実させつつ、施設規模に見合う実現可能な、白馬村に相応しい施設整備を目指すため、具体的な検討を踏まえた上で、機能を定めていきます。

### 2. 今後の事業推進について

次年度は、本基本構想を踏まえ、基本計画の策定に向けて、「第4章 新たな図書館等複合施設の機能の検討」を中心に実現可能性について検討を進めます。

建設及び運営に必要な財源の検討、建設候補地の絞り込みに加えて、整備や運営については、官民連携（PPP＝パブリック・プライベート・パートナーシップ）も視野に入れながら、新たな図書館等複合施設における事業手法及び運営体制等について、地域との連携や民間活力の導入方法等を検討します。

2023年度の開館を目指して、以下のスケジュールで検討を進める予定です。

内容 \ 年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023
基本構想策定 アンケート・ワークショップ 既存公共施設複合化検討 有識者会議 機能検討	→					
基本計画策定 施設規模と機能配置 各機能の運営検討 建設場所の特定 官民連携に関する検討		→				
用地交渉・用地取得		→				
施設長（館長）の採用			→	→	→	→
機能ごとの運営詳細検討			→	→	→	→
設計				→		
着工					→	
開館						→

### 3. 運営体制と施設のあり方の検討について

ボランティアを通じた交流が促進されるような、ハード面及びソフト面の設計を検討します。また、そこで働くスタッフへの配慮も念頭に入れながら、住民がボランティア活動をしやすい機能を検討します。

図書館サポーターのような考え方として、「力・作業を出す人」と、雑誌サポーター制度などを含めた「お金（寄付）を出す人」など、様々な関わり方を検討します。

## 資料編

## 資料1. 図書館及び図書館を含む複合施設における先進事例

本構想の策定にあたっては、図書館（交流施設）の先進事例から学び、有識者会議及びワークショップでの検討内容を考慮した構想とすることが必要です。

以下にまとめた先進事例は、主にまちづくりや地域の活性化につながる役割を上手に果たしている、図書館または図書館機能を含む複合施設の事例です。また、最後には、図書館機能は含まないものの、屋内遊戯施設であり、子育て支援と地域の賑わいに貢献している施設として、先行事例を載せています。

白馬村の地域特性を理解した上で、課題解決、子育て支援、新しいサービス、地域連携、ビジネス支援、観光とのシナジーなどについて、先進事例を分析評価し、管理・運営サービスを目指し、新たな図書館等複合施設に向けて、検討します。

### ① 図書館×まちづくりの先進事例

まずは、白馬村が目指している、図書館を中心としたまちづくりをするという観点での先進事例です。

小布施町立図書館まちとしょテラスは、開館前から開館後も、常に住民と共に図書館のあり方を考え、成長しています。紫波町図書館は、まちの特徴として、農業や民芸などの資料に特化し、地域のあり方を利用者に示しています。

白馬村でも、このように村の特徴を図書館が示して、豊かなむらづくりに寄り添える図書館を目指します。

長野県小布施町 小布施町立図書館 まちとしょテラス

まちづくり



延べ床面積: 999㎡  
蔵書冊数: 98,000冊  
開館年月: 2009(平成21)年7月

図書館を中心としたまちづくり

「まちじゅう図書館」として酒屋、味噌屋、カフェや個人宅の玄関先に本棚を設置し、観光客や住民を巻き込んだ運営を実施している。

「交流と想像を楽しむ文化の拠点」として掲げた理念に基づく住民参加の取り組みが高く評価され、「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2011」の大賞を受賞している。



## 岩手県紫波町 紫波町図書館

まちづくり



延べ床面積: 1,574㎡  
蔵書冊数: 88,000冊  
開館年月: 2012(平成24)年8月

### まちづくりの中核施設

紫波中央駅前「オガールプロジェクト」の中核として計画された図書館。常に図書館の外を意識し、他者と連携を図り、情報を発信することにより、町民が自力で課題解決するための情報を提供している。

農業支援サービスや調べる学習支援などの取り組みにより、「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2016」の優秀賞に選ばれた。

また、これからの図書館は、本だけではなく、多様な人々が自分の価値を表現する場でもあります。福智町図書館・歴史資料館ふくちのちでは、開館前から地域住民を巻き込み、中学生や住民が、議論の中から多様なサービスを考えました。白馬村でのワークショップでも、たくさんの新しい機能が議論されています。そのアイデアを活かすことを学ぶ、先進地の事例です。

## 福岡県福智町 福智町図書館・歴史資料館 ふくちのち

まちづくり



延べ床面積: 3,586㎡  
蔵書冊数: 50,000冊  
開館年月: 2017(平成29)年3月

### 地域主体の新しい図書館が実現

福智町では、計画段階より中学生や住民が、積極的に新しい図書館の実現に向けたワークショップや討論を重ね、従来の図書館では考えられない多様な機能を設置するに至った。

交流広場、スタジオ、ものづくりラボ、クッキングラボ、歴史資料館、サイレントルーム、カフェ、こども広場など、多様な複合を実現している。

2019年1月にオープンしたばかりの須賀川市民交流センターtetteは、規模こそ違えども、最も白馬村が目指す施設としての形に似ている複合施設といえます。図書館機能、子育て機能、博物館機能、屋内遊戯施設機能など、ワークショップやヒアリングで出された機能をうまく取りいれており、運営には地元ボランティアの人たちを巻き込むパートナー制度を導入し、上手にまちづくりに繋げています。

福島県須賀川市 須賀川市民交流センター tette

まちづくり



延べ床面積:13,698㎡  
蔵書冊数:240,000冊  
開館年月:2019(平成31)年1月

中心市街地の再生・活性化

図書館を核とした複合施設による中心市街地の再生・活性化を目的に建設された。

図書館と多目的ホール、子育て支援センター、屋内遊び場、クッキングルーム、ダンススタジオ、音楽スタジオなど様々な機能がゆるやかに連続しながら融合しており、地域連携を強かにサポートする施設である。(2019年1月開館)

② 図書館×課題解決の先進事例

白馬村でのビジネス展開を期待することを考えたとき、くまもと森都心プラザ図書館、鳥取県立図書館、塩尻市立図書館などの先進図書館では、起業に関するパンフレット等情報の充実、法律や経営などに関する専門家を紹介するなど、その土地でいきいきと活動する人々を支援する取組みを強化することで、地域活性化に貢献しています。

白馬村のインキュベーションを担う図書館を目指すことを考え、先進事例に学びます。

熊本県熊本市 くまもと森都心プラザ図書館

ビジネス支援



延べ床面積:3,488㎡  
蔵書冊数:229,000冊  
開館年月:2011(平成23)年10月

ビジネス支援図書館

図書館にビジネス支援センターを併設し、中小企業診断士が常駐することで、地域の中小企業や起業の支援を実施している。

その他にも新しいサービスやイベントに積極的に取り組み、「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2015」を受賞した。

## 鳥取県 鳥取県立図書館

課題解決支援



延べ床面積: 8,964㎡  
蔵書冊数: 1,104,000冊  
開館年月: 1990(平成2)年10月

### 日本一の課題解決図書館

「くらしと仕事に役立つ図書館」をミッションとして、地域の課題解決を強かに支援しており、地域での起業・商品開発・特許の取得を支援し、ビジネス支援の先進的サービスを実施している。

さらに、医療福祉、子育て支援、高齢者サービスを充実しており、第1回目となる「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2006」を受賞している。

## 長野県塩尻市 塩尻市立図書館

課題解決支援



延べ床面積: 3,286㎡  
蔵書冊数: 382,000冊  
開館年月: 2010(平成22)年7月

### 本の寺子屋

図書館を中心に、著者・出版社・書店が連携し、地域の課題解決に役立つ講座やイベント、展示会等を一年を通して行い、地域力を高める文化創造に貢献している。

素晴らしい講師陣にも大きな魅力がある。

### ③ 図書館×子育て支援の先進事例

白馬村で目指している新たな図書館等複合施設では、図書館と子育て支援を柱とする運営を考えています。

高浜市立図書館、弘前市立図書館などの先進事例では、遊具での支援もありますが、図書館が集める資料や本を通じてできる支援に力を入れています。これは、未来を担う子どもたちの学習の場としても活用されています。

白馬村でも、学習機能を取り入れた子育て支援を検討するための先進地事例です。

## 愛知県高浜市 高浜市立図書館

教育連携



延べ床面積: 1,105㎡  
蔵書冊数: 205,000  
開館年月: 1979(昭和54)年4月

### 食育と図書館の連携

図書館に「食育コーナー」を設置し、レストランや美術館とも連携し、地域食材や健康について積極的に推進している。定期的に食育についてのテーマを選び、市民との連携を深めている。

さらに、絵本に登場する料理を丁寧に紹介し、子どもたちにも親しみやすい食育の取組みを続けている。

## 青森県弘前市 弘前市立図書館

子育て支援



延べ床面積: 4,293㎡  
蔵書冊数: 509,000冊  
開館年月: 1990(平成2)7月

### 子育て支援図書館

これからの時代の地域を担う子どもたちが、健やかに生まれ育つことを願い、出産や育児関連図書を整備し、子育て世代をバックアップしている。

0才から3才までの子どもと保護者を対象とした「おはなし会」は、本を通じた親子のふれあいの大切さを支援している。

また、図書館ではありませんが、東根市さくらんぼタントクルセンターは、屋内遊戯施設を含む複合施設として、子育て支援と地域の賑わいづくりに貢献している先進事例です。

## 山形県東根市 東根市さくらんぼタントクルセンター

子育て支援



延べ床面積: 8,572㎡  
開館年月: 2005(平成17)年4月

### 地域活動の拠点

子ども達から高齢者まで、世代を超えた様々な人々がたくさん訪れる「生き生きと生きる」ための交流の場として整備された。

保育所、地域子育て支援センター、大型遊具のあるホール、保健福祉センターなどが併設されており、子育て支援・保健福祉の地域活動の拠点となっている。

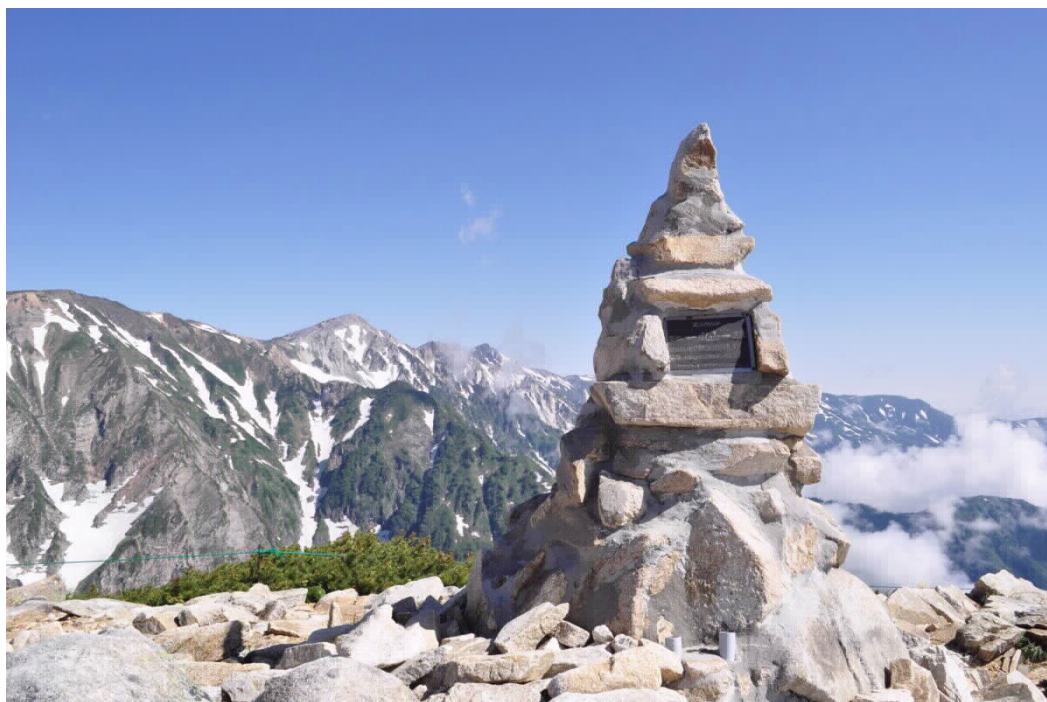
公共図書館を含む複合施設等の建設事例

自治体名	人口 2018.10.1現在	複合施設名称	館名	開館 年月	総事業費 (千円)	複合施設 延床面積 (㎡)	図書館 延床面積 (㎡)	蔵書 冊数	開架図書 冊数	利用登録者数 (2018.3.31現在)		登録範囲	施設の内容	施設の特徴
										町村内	町村外			
栃木県 茂木町	12,311 (H30.8.1)	茂木町まちなか文化交流館 ふみの森もてぎ	ふみの森 もてぎ図書館	H28.7	1,500,000	2,978	1,000	55,405	55,405	3,002	1,619	なし	1F: 図書館、歴史資料 展示室、交流広場、カ フェ、ギャラリーなど 2F: 図書館、書庫、学 習室、会議室など	酒造蔵元ほか、隣接する 1900坪の土地に、町有 林材をふんだんに活用し た「まちなか文化交流館 (ふみの森もてぎ)」
沖縄県 恩納村	11,074 (H30.8.1)	恩納村文化情報センター	恩納村 文化情報センター (図書館情報フロア)	H27.4	700,000	1,600	1,300	68,000	68,000	2,500	5,000	なし	1F: 観光情報フロア、多 目的ルーム 2F: 図書館情報フロア、 恩納村博物館隣接	観光情報フロア、カフェな どもある。海が見える開架 棚。海をイメージしたお話 部屋がある。
長野県 松川村	9,777	松川村多目的交流センター すずの音ホール	松川村図書館	H21.4	1,132,220	2,836	502	65,392	54,810	4,079	1,666	なし	1F: ホール、図書館、事 務室、ギャラリー 2F: 調理室、多目的 室、研修室、練習室など	ホールは300人収容で、 コンサート、演劇、講演会 と、使い方に合わせて形を 変えられる多目的仕様。
長野県 木曽町	11,238	木曽町文化交流センター	木曽町図書館	H29.9	1,450,000	2,186	506	40,000	35,000	2,343	350	木曽郡内在住・ 通勤・通学	1F: 図書館、教育委員 会 2F: 多目的ホール、大 会議室、調理室 3F: 小会議室、和室、 音楽練習室	太陽光発電や自家発電 装置などを備えた防災施 設としての機能を持つ施 点。建物には木造ヒノキ など地場産木材を使用。
長野県 池田町	9,874	池田町地域交流センター	池田町図書館	H31 (予定)	1,289,900	2,264	501	60,000	—	2,097	510	近隣市町村在 住・通勤・通学	ホール、中ホール、会議 室、多目的作業室、防 音室、図書館、親子交 流室、おはなしコーナー、 プレイスペース	「池田町社会資本総合 整備計画」事業の一環と して整備。
長野県 小布施町	11,014	—	小布施町立図書館 まらちまほう	H21.7	400,000	—	999	97,717	56,461	4,642	6,296	近隣市町村在 住・通勤・通学	コンシェルジュカウンター・ サービスカウンター、書架・ 児童コーナー<閲覧席・ 調査閲覧室・多目的室・ 視聴覚コーナー、カフェ コーナー→授乳コーナー	「学びの場」「子育ての 場」「交流の場」「情報森 信の場」という4つの柱に よる「交流と創造を楽し む、文化の拠点」として整 備。
長野県 白馬村	8,745	—	白馬村図書館	H10.10	—	474	398	50,819	24,415	2,412	134	大北管内在住・ 通勤・通学	—	—

## 町村の図書館を含む複合施設等の参考事例（指定管理等）

自治体名	複合施設名称等	図書館名	人口 2018.10.1現在	開館年月	総事業費 (千円)	複合施設 延床面積 (㎡)	図書館 延床面積 (㎡)	施設の内容	施設の特徴	指定管理 その他
北海道 中札内村	中札内文化創造センター	中札内村図書館	3,874	H9.7		2,259	458	教育委員会、図書館、ホール、視聴覚室、研修室、和室、茶室、創作活動室（陶芸室）、会議室	十勝の農村地域を一つの「屋根のない博物館」として保全・活用する取組「とから田園空間博物館」の地域資源を活用した施設の一つ。ホールはステージが昇降式、客席が可動式となっている。	地元有志による組織Ben-in倶楽部（外部委託）
山梨県 山中湖村	山中湖文学の森公園	山中湖情報創造館	5,821	H16.4	331,020		1,570	情報創造館、観光局、三島田記文学館、忍富郷郷館、俳句の館、養生庵など	26100坪ある山中湖文学の森公園に各施設が点在する。情報創造館には、ポードーム貫出、3Dプリンター、図書館職員pepper、湖の見える閲覧席、研修室などがある。	特定非営利活動法人地域資料デジタル化研究会 (NPOが初めて指定管理者として協定した公共図書館)
北海道 池田町	池田町総合体育館・池田町田園ホール・池田町立図書館 が隣接	池田町立図書館	6,767	H24.10			609	総合体育館、田園ホール、図書館	図書館に隣接する総合体育館、田園ホールとの複合施設で、体育館は柔道場、剣道場、卓球場、多目的室、トレーニングルームがあり、ホールは研修室や調理室などがある。図書館はH24に旧勤労青少年ホーム施設に移転・開館した。	株式会社ドリムワーク（総合体育館・田園ホール・図書館の指定管理者）
岐阜県 大野町	大野町総合市民センター	大野町立図書館	23,128	H6.7		8,506	1,078	ふれあいホール、多目的ホール、会議室・A V 室・図書室、図書部など	ふれあいホールは980席（1階席734席、2階席240席、母子室6席）、多目的ホールは300席を有する。スタジアムコートピアやヤマハパブリックサートピアの設置をはじめ、音響、照明設備も充実している。	指定管理者 管理運営共同団体代表者 株式会社山底組 構成員 株式会社三和サービス 岐阜県湯水の道の駅（リットピア）のおおのが昨年7月にオープンした
岩手県 一戸町	一戸町コミュニティセンター「わわのどおーも」	一戸町立図書館「ぶらぶらいが590い」	12,615	H14.7	977,000 (本林工事)	2,690	608	多目的ホール、展示ギャラリー、会議室・A V 室・図書室	ドーム型のホール（500席収容）を中心に会議室が化フェイク、図書館が南フェイクと異なして建設。子ども向け、一般向けの映画会開催などを行っている。	特定非営利活動法人 いちのへ文化・芸術NPO
高知県 黒潮町	大方あかつき館	黒潮町立大方図書館	11,260	H18		2,218	310	1 F 図書館・ホール・市民ギャラリー・林岫文学館、図書部、レクチャーホール、町民ギャラリー、会議室、和室、2 F 文学館・会議室 屋外テラス	「大方あかつき館」は工佐西南大規模公園の中にある黒潮町の文化施設。黒潮町 大方出身の作家 上林 隆の文学館や図書館などがある複合施設。建物「白い扇形船」（純文学賞）をイメージしており、上空から見ると「白い扇形船」のような造りになっている。H10年建設。	N P Oあかつき
高知県 梼原町	「雲の上の図書館」前に複合福祉施設「YURURI（ゆるり）ゆずはら」	梼原町立図書館「雲の上の図書館」	3,539	H30.5	2,800,000	4,700	1,940	交流広場、生涯学習課、会議室、多目的ルーム、コミュニティセンター、ベビールーム、子育て相談室、ポータルコーナー、カフェなど	新国立競技場の設計者である建築家隈研吾が建築。屋根から無柱に出ている木材が枝のようになっている。森の中をイメージした内観となっている。地元産の木材を使用。図書館内は靴を脱いで入館。建築空間を活かしている。48本、脚めくりがあり、本をテーマにどこにいても分け配架、海洋堂のジオラマ展示。	図書館は町が運営し、福祉施設は町社 会福祉協議会が指定管理を受け、福祉施設には「ライオンビズヤアハウス」などがある。昨年5月オープン。

# 新しい図書館の施設及び サービスに関する報告書



～新しい図書館はみんなの道しるべ～

平成30年10月

白馬村図書館施設検討委員会

## <目 次>

1. はじめに.....	1
2. 図書館の現状と課題.....	2
(1) 図書館の現状.....	2
(2) 図書館の課題.....	3
3. ワークショップの開催.....	3
4. 新図書館建設の基本的な考え方.....	3
(1) 誰でも利用しやすい図書館.....	3
(2) 白馬らしさが感じられる図書館.....	4
(3) 飲食について.....	4
(4) その他.....	4
5. 図書館のコンセプト.....	4
6. 図書館サービス.....	5
(1) 館内事業.....	5
(2) 館外事業.....	5
(3) 読書教育事業.....	5
(4) 広報事業.....	5
(5) 学校との連携.....	6
7. 必要な施設と規模.....	6
(1) 新図書館に必要とする施設.....	6
(2) 規模など.....	7
8. 建設に向けて留意すべき点.....	8
9. その他.....	9



## 1. はじめに

白馬村図書館は、明治42年に現在の白馬北小学校に開設されたのが始まりでした。その後公共施設の空きスペースを有効活用しながら何度も場所を移動し、平成10年に現在の場所に移りました。現在図書館のある建物も、もともと法務局として利用していたものを、払い下げによって利用することとなりました。そのため図書館として利用するには規模も小さく、書架スペースも制限されるため、運営するにあたって十分なサービスの提供ができませんでした。そのため、図書館の利用者からもっと広い図書館にしてほしい、もっと本を増やしてほしいなどといった要望が以前から多くありました。

このような状況から、村では村民の要望に応えるべく、新図書館建設についてまちづくりの基本方針を示す「白馬村第5次総合計画」並びに「白馬村総合戦略」に位置付け、調査・検討を行うこととしました。また、平成28年4月に白馬村教育委員会が策定した「白馬村図書館基本計画」にも新図書館建設について調査・検討を行うと記載されています。さらに公共施設等の老朽化対策が全国的に問題となっている中で、公共施設等の今後のあり方について平成29年3月に村が策定した「白馬村公共施設等総合管理計画」においては、新図書館建設は村の負担が大きいと、子育て施設や社会教育施設などの他の施設との複合化を検討する必要があるとされています。このことから村では、図書館を含めた複合施設の建設について調査・検討することとなりました。これを受けて白馬村教育委員会は、新たな図書館のあり方や施設整備について調査・検討するため、平成29年7月に白馬村図書館施設検討委員会を立ち上げました。この検討委員会は白馬村教育委員会の諮問機関で、学識経験者、幼児・児童・生徒の保護者代表、学校教育関係者など15名で構成されました。

検討委員会では、新図書館を造るにあたってより多くの村民に利用していただく必要があることから、まず村民が望む図書館像を知るために、可能な限り多くの意見を集める必要があると考えました。その方法として、ワークショップの開催やアンケートの実施、文化祭での意見の書き込みコーナーの設置、知人など委員の周辺の人々の意見など、様々な形で意見を集めることとしました。その結果、従来型の図書館にとらわれない、あらゆる年齢層の人が気軽に利用でき、ゆっくり時間を過ごせる”場”となることを求める意見が多く寄せられました。その点を踏まえ、白馬らしい特徴のある図書館とは何かを議論し、山、自然、外国人に象徴される多様性というキーワードを中心に据えて考える方向を見出しました。白馬のことをあらゆる面から知ることができ、関連する情報を提供できる”場”となることを核に据えることとしました。

新図書館を物心両面で利用しやすい、村民の道標的な存在として位置付け、村民ならば馴染みのある”ケルン”という言葉に象徴させました。平穏な時には休憩場所や目標となり、迷った時にはとても頼りになる存在、そんな図書館となってほしいと願い、目指す図書館像をここにまとめましたので報告いたします。

## 2. 図書館の現状と課題

### (1) 図書館の現状

#### 【施設の状況】

開設：平成10年10月8日

施設：昭和62年12月10日築 鉄筋コンクリート造  
1階 285.23㎡ 2階 188.58㎡ 計 473.81㎡  
うち、図書館専有面積 398.2㎡

#### 【職員の状況】

職員数：4名

兼任1名（図書館長兼生涯学習スポーツ課長、司書資格なし）

嘱託職員2名（司書資格あり）

臨時職員1名（司書資格あり）

（※平成30年10月1日現在）

#### 【サービスの状況】

開館時間：午前9時から午後6時まで

休館日：毎週月曜日、祝日、毎月最終金曜日（館内整理日）、その他（年末年始、蔵書点検期間）

貸出冊数：ひとり10点（うち視聴覚資料3点）まで

貸出期間：3週間

団体貸出：100冊まで60日間（村内の団体のみ）

図書等：蔵書冊数 53,421冊（視聴覚資料及び雑誌を含む）

開架図書 24,573冊、視聴覚資料DVD 339点、CD 64点

（※平成30年3月31日現在）

新聞：朝日新聞・信濃毎日新聞・大糸タイムス

その他：利用者開放用インターネット端末 1台

館内閲覧用視聴覚資料再生プレーヤー 3台

大北地域の図書館の相互利用（どの図書館でも返却可能）

レファレンスサービス（※利用者の求める情報を図書館が提供すること）

インターネットでの予約サービス

#### 【利用状況】

登録者数：2,546人（※平成30年3月31日現在）

来館者数：13,811人（※平成29年度実績）

貸出冊数：24,813冊（※平成29年度実績）

## (2) 図書館の課題

### 【施設の課題】

- ・施設や設備の老朽化
- ・読書スペースが狭い
- ・車いすで館内を移動できない
- ・図書収納スペースがない
- ・駐車場が狭い

### 【職員の課題】

- ・専任の館長がない
- ・職員が1人となる時間帯がある

### 【サービスの課題】

- ・本が少ない
- ・雑誌の購入がない
- ・読書会や講座の開催がない
- ・Wi-Fiがない
- ・新聞が少ない

## 3. ワークショップの開催

白馬中学生、白馬高校生や一般の方を対象にワークショップを開催しました。ワークショップでは様々な提案が出されました。意見が多かった提案内容については次のとおりです。

- ・飲食できる場所がある
- ・シアタールームがある
- ・山が見える窓
- ・Wi-Fi
- ・カフェ
- ・マンガ
- ・静かな場所
- ・騒げる場所
- ・本の充実
- ・自習室
- ・ゆったりしたスペース
- ・幼児が遊べる場所
- ・雑誌がたくさんある
- ・畳の部屋
- ・辞書や教科書がある
- ・ゆっくりできるスペース
- ・公園がある
- ・みんなで勉強できるスペース
- ・村の歴史資料がある
- ・外国人との交流
- ・山をテーマにしたコーナー
- ・子どもの居場所
- ・授乳室
- ・おむつ替えスペース

## 4. 新図書館建設の基本的な考え方

### (1) 誰でも利用しやすい図書館

- ①幼児から高齢者まで、あらゆる人々が支障なく利用できるようにすること。
- ②白馬村に居住する外国人や観光客にも利用しやすいように、外国語資料の充実を図ること。
- ③ユニバーサルデザインに基づく館内外整備とし、利用者が普段着で土足のまま気軽に入出りできるようにすること。
- ④内部は明るくて、夏は涼しく冬は暖かく、居心地が良い雰囲気であること。
- ⑤単純で明快な平面とし、見通しがきいて、自分のいるところや行きたいところが分かりやすいこと。
- ⑥音に対してある程度寛容な空間を多くし、吸音効果のある素材などを検討すること。一方で静かに学習や読書ができる場所も確保すること。
- ⑦Wi-Fiを設置すること。
- ⑧融雪設備等、雪対策がしっかりしていること。

- ⑨駐車場が広いこと。
- ⑩移動手段のない方も利用できるよう送迎バス等の導入を検討すること。
- ⑪開館時間については、利用者の動向に柔軟に対応できるようにすること。

#### (2) 白馬らしさが感じられる図書館

- ①景観がよく、館内から白馬三山が見渡せることができ、自然に囲まれた場所にあること。
- ②木のぬくもりが感じられる建物であること。
- ③白馬の文化や歴史を知ることができる資料やコーナーを設置し、外国人や観光客も利用しやすいように工夫すること。

#### (3) 飲食について

- ①飲食できるエリアは従来の考え方に捉われず検討し、それに対応できる備品や床構造とすること。
- ②飲食物の提供については、費用や保守等の負担が少なくなるように考慮すること。また、障害者施設など民間委託も検討すること。

#### (4) その他

- ①職員にとって効率よく作業ができ、働きやすい快適な環境となっていること。
- ②資料の増加や新しいサービスシステムの導入に対応できるように、固定壁・柱は極力少なくした構造とすること。
- ③施設を維持する上で、資源の浪費を減らし省エネルギー化を図ること。太陽光・バイオマスなどの持続可能な循環型エネルギーシステムの導入を検討すること。
- ④人的充実を図るため、専門職員を増員し、職員の資質の向上に努めるとともに、職員をサポートするボランティア等の配置なども検討すること。

## 5. 図書館のコンセプト

白馬村は世界に誇れる雄大な白馬連山に抱かれた山岳資源を所有しており、毎年大勢の登山客やスキー・スノーボード客が訪れています。検討委員会では、白馬村の観光のメインとなる「山岳」ということばからコンセプトとなるものを検討することとし、図書館が村民一人ひとりの道標となるようにと願い、登山者の道標となる「ケルン」をコンセプトとしました。

図書館が、そこにある資料や集まっている人びとからの情報や刺激によって、日々の仕事や生活の中で抱えた課題解決の一助となったり、とりあえずそこを目指して立ち寄るだけでも何かを得られるような「街中のケルン」としての存在となるよう期待します。

## 6. 図書館サービス

現在の図書館は規模が小さいために十分なサービスが行えているとは言えない状況でした。新たな図書館が建設されれば、より充実したサービスが提供できることとなるため、これまで行っていたサービスをさらに充実させる必要があります。

### (1) 館内事業

#### ○資料管理

図書資料の購入及び除籍を計画的に進め、的確な資料管理を行うとともに、利用者にとって魅力的で使いやすい書架づくりを行うこと。

#### ○資料の収集

村民の生涯学習の多様化による資料要求に応えるために、より新鮮で魅力のある資料を揃え、充実した図書館を目指し、効率的に図書館資料等の収集を行うこと。

また、白馬村に関するあらゆる資料等の収集と保存管理を行うこと。

#### ○資料の貸出

予約、リクエストサービスを重視し、県立図書館を中心に県内の公立図書館と連携を行い、相互貸借サービスを利用して村民の要求に応えること。

#### ○レファレンスサービス

利用者の課題解決のための相談に対応するために、参考図書の整備や職員の技術向上を図ること。また、県立図書館と連携を行い、レファレンスサービスを充実させること。

### (2) 館外事業

#### ○団体貸出

教育関係施設、福祉施設、ボランティアなどの団体やグループに積極的に団体貸出を推進するなど、読書支援を行うこと。

#### ○出張貸出事業

図書館から離れている地域の方にも資料の貸出が行えるよう出張による貸出を行うこと。

### (3) 読書教育事業

#### ○定例事業

本の読み聞かせなどを通じて、親子で本と親しみ、読書習慣のきっかけを作ること。

#### ○季節事業

幼児から一般を対象にした様々な講座や講演会、イベント等を開催し、図書館へ足を運ぶきっかけを多く作ること。

### (4) 広報事業

ケーブルテレビ、広報紙やインターネットなどあらゆる媒体を利用して図書館の情報や事業について広報を行うこと。

### (5) 学校との連携

職員や資料を有効活用し、学校図書館との連携を図ること。

## 7. 必要な施設と規模

### (1) 新図書館に必要とする施設

施設としては以下のものが必要であると考えます。

ゾーン	スペース	諸 室
利用者のためのゾーン	導入エリア	エントランス 飲食可能なラウンジスペース 展示コーナー 映像コーナー
	交流・学習エリア	多目的室（プロジェクター・スクリーン・鏡・可動椅子付） 学習室（個人用・グループ用） 視聴覚資料閲覧スペース インターネットスペース
	白馬エリア	地域資料閲覧コーナー
	開架エリア	一般開架 雑誌コーナー 読書スペース（デッキエリア含む） 資料検索スペース
	幼児・児童エリア	児童開架 子育て支援情報コーナー キッズルーム（おはなしの部屋） 授乳室・オムツ替えスペース
	共用エリア	WC 倉庫 階段・エレベーター
	外部エリア	公園・憩いのスペース
管理運営のためのゾーン	サービスデスク	貸出・返却受付 レファレンスコーナー
	事務・作業エリア	事務・作業室
	福利厚生エリア	休憩室・更衣室
保存のためのゾーン	保存エリア	書庫 歴史資料等保管スペース 作業スペース

## (2) 規模など

### ○立地条件

検討委員会で議論する中で、立地の条件として以下の点を考慮すべきであるという意見が出ました。

- ① 自然に囲まれており、白馬三山が展望できる場所にある
- ② 駅周辺など学校の近くなど利用しやすい場所にある
- ③ 遠方の人が訪れやすく、車などで立ち寄りやすい場所にある
- ④ 近接した土地に余裕がある

その他、財政的な負担やスケジュールを考慮し、村が現在保有している土地を有効的に活用できないか検討すること。

### ○建設場所

検討委員会では、前項に記載した立地条件の大半をクリアし、木流公園に隣接、周辺に拡張可能な用地を有し、役場や白馬北小学校も近いことから、以下の場所を候補地として推奨します。ただし、敷地に面した道路が狭いことから、大型バスが入れるよう道路整備を行い、施設規模に応じて周辺の土地の取得も検討すること。

また、建設に当たっては、現有する子育て支援ルームとの調整を行うこととし、木流公園の敷地も有効利用すること。

### 現白馬村子育て支援ルーム敷地（地番：白馬村大字北城6938番地ほか）

※赤枠が村有地（6938番地面積4249.89㎡、6940番地1面積293㎡）



○規模、収容能力、数値目標、職員数など

規模等については以下の計算方法において算出されたものを指標とし、検討することを推奨します。

人口	延べ床面積	蔵書冊数	開架冊数	職員数
8,900人	1,180㎡	74,470冊	54,284冊	7人

※この数値は「公立図書館の任務と目標」（日本図書館協会図書館政策特別委員会 2004年3月改訂）の計算方法にて算出した。この計算は人口を基としている。

※人口は、平成30年4月1日現在の村人口8,947人を100人未満切捨てした。

○駐車場

今後、村民が集うイベントを開催するなどして適宜利用が見込まれるため、概ね30台程度駐車が可能であることを条件とする。また駐輪場も設けること。

## 8. 建設に向けて留意すべき点

検討委員会では以下の点について十分に留意し、建設に向けて進めていくように提言します。

- ①子連れでも気兼ねなく立ち寄れるように配慮し、子どもの一時預かり機能などを有する施設も同時に整備すること。
- ②子どもを見ながら気軽に利用でき、また高齢者にも利用しやすいカフェを施設内もしくは近接した場所への設置を検討すること。
- ③ゆとりあるスペースを確保し、利用者にとって居心地のよい空間づくりを行うこと。
- ④建物はデザインに偏らず、維持管理や安全に配慮したものとすること。また、白馬三山が見渡せるなど自然を感じられるような設計とすること。
- ⑤多目的室など日常的に使用しない場合は一般に開放すること。
- ⑥開架図書のスペースで閉架図書リストも一覧できるように工夫すること。
- ⑦誰もが気軽に立ち寄れる場所にするために、これまで図書館に足を向けなかった人のある種障害となっていたと考えられる「静かに学習する場所」というイメージを払拭する必要がある。そのために、既成の概念にとらわれることなく、音・飲食・遊びといった点に配慮し、全体の設計を行うと共に、運営にもあたること。



## 9. その他

### ○委員名簿

番号	氏 名		選出区分	備 考
	平成29年度	平成30年度		
1	富山 正明		社会教育委員会委員長	委員長
2	小林 英雄		図書館協議会会長	副委員長
3	太田 史彦		学識経験者	
4	塩島 弘之		学識経験者	
5	内山 葵	石山麻衣子	しろうま保育園保護者代表	
6	宗川 尚美	中澤小百合	白馬幼稚園保護者代表	
7	太田 雄介	武藤 慶太	白馬北小学校 PTA 会長	
8	太田 和也	渡部 虎史	白馬南小学校 PTA 会長	
9	藤生 誠	太田 具英	白馬中学校 PTA 会長	
10	高橋いづみ	木下 政道	白馬北小学校校長	
11	北沢 芳洋	倉科 浩美	白馬南小学校校長	
12	田中 守		白馬中学校校長	
13	小川由美子		公募委員	
14	長島 律子		公募委員	
15	高橋 英子		公募委員	

資料3. 白馬村公共施設等総合管理計画による耐用年数到来年度一覧表

No.	施設名称	主管課	延面積 (㎡)	建築年度	構造	運営	耐用年数 到来年度
1	白馬山岳遭難対策センター	観光課	130	昭和45年度	木造	直営	平成6年度
2	白馬村歴史民俗資料館	生涯学習 スポーツ課	450	昭和57年度	木造	指定 管理	平成18年度
3	子育て支援ルーム	子育て支援課	1,195	昭和50年度	鉄骨造	直営	平成21年度
4	夢白馬	観光課	439	平成5年度	木造	指定 管理	平成25年度
5	白馬いこいの杜スポーツアリーナ	生涯学習 スポーツ課	528	平成3年度	木造	指定 管理	平成25年度
6	神城多目的集会施設	農政課	636	昭和56年度	鉄骨造	直営	平成27年度
7	白馬村グリーンスポーツ施設	生涯学習 スポーツ課	597	昭和53年度	鉄筋 コンクリート	指定 管理	平成28年度
8	白馬村B&G海洋センター体育館	生涯学習 スポーツ課	1,102	昭和58年度	鉄骨造	直営	平成29年度
9	白馬村B&G海洋センタープール	生涯学習 スポーツ課	159	昭和58年度	鉄骨造	直営	平成29年度
10	白馬村多目的研修集会施設	総務課	1,547	昭和56年度	鉄筋 コンクリート	直営	平成31年度
11	白馬村観光案内所	観光課	230	昭和45年度	鉄筋 コンクリート	業務 委託	平成32年度
12	ノルウェービレッジ	総務課	532	平成9年度	木造	貸付	平成33年度
13	夢白馬食品加工施設	観光課	166	平成3年度	鉄骨造	指定 管理	平成34年度
14	村営住宅森上団地	建設課	307	昭和53年度	PC造	直営	平成37年度
15	村営住宅白馬団地	建設課	325	昭和53年度	PC造	直営	平成37年度
16	地域生活基盤施設大出センター (カッパの館)	建設課	158	平成18年度	木造	直営	平成38年度
17	庄屋まるはち	観光課	579	平成19年度	木造	指定 管理	平成39年度
18	白馬村農業体験実習館	農政課	396	平成1年度	鉄骨造	直営	平成39年度
19	放課後児童クラブ	子育て支援課	96	平成5年度	鉄骨造	直営	平成39年度
20	白馬村障害者地域活動支援センター	健康福祉課	118	平成5年度	鉄骨造	業務 委託	平成39年度
21	白馬村保健福祉ふれあいセンター	健康福祉課	1,950	平成5年度	鉄骨造	直営	平成39年度
22	白馬村ジャンプ競技場	生涯学習 スポーツ課	331	平成2年度	木造	業務 委託	平成40年度
23	夢白馬ろまん市	観光課	30	平成17年度	木造	指定 管理	平成41年度
24	白馬村デイサービスセンター岳の湯	健康福祉課	831	昭和54年度	鉄筋 コンクリート	指定 管理	平成41年度
25	白馬村役場	総務課	4,014	昭和54年度	鉄筋 コンクリート	直営	平成41年度
26	白馬村八方体育館	総務課	1,351	昭和59年度	鉄筋 コンクリート	指定 管理	平成43年度
27	白馬村北部農業者トレーニングセンター	生涯学習 スポーツ課	1,200	昭和59年度	鉄筋 コンクリート	直営	平成43年度
28	白馬村南部農業者トレーニングセンター	生涯学習 スポーツ課	966	昭和61年度	鉄筋 コンクリート	直営	平成45年度
29	白馬クロスカントリー競技場	生涯学習 スポーツ課	2,688	平成8年度	鉄骨造	業務 委託	平成46年度
30	白馬村図書館	生涯学習 スポーツ課	351	昭和62年度	鉄筋 コンクリート	直営	平成49年度
31	ウイング21(文化ホール)	生涯学習 スポーツ課	3,069	平成10年度	鉄骨鉄筋 コンクリート	直営	平成57年度
32	ウイング21(アリーナ)	生涯学習 スポーツ課	4,112	平成10年度	鉄骨鉄筋 コンクリート	直営	平成57年度

## 資料4. 白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議議事録

### 第1回 白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議 議事録

1. 開催日時 平成30年8月30日(木) 午前10時～午前12時
2. 開催場所 白馬村役場 2階 201会議室
3. 出席者の氏名
- |        |       |       |
|--------|-------|-------|
| 糸賀 雅児  | 多田 千尋 | 岡田 勉  |
| 大日方 悦夫 | 中澤 宗幸 | 松沢 貞一 |
| 山内 康裕  | 富山 正明 |       |

以上8名

(欠席：奥田 純子)

(日本カルチャーデザイン研究所)

花井 裕一郎 田中 榮博

(白馬村役場) 下川 正剛 (冒頭のみ)

吉田 久夫 関口 久人 矢口 浩樹

下川 貴彦 渡邊 宏太

(その他) 西宮 竜也 蓮井 英史 石野 真

(傍聴者) 11名

(報道) 4社

## 4. 議事

### (1) 村長挨拶

### (2) 委員及び出席者自己紹介

#### 糸賀委員

慶應義塾大学名誉教授

図書館の政策や経営が専門。日本各地の図書館のアドバイザー等を務める。

「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の制定と改定に関わる。

### 松沢委員

(株)白馬館代表取締役社長。山小屋、スキー場、旅行業経営。

白馬の観光の原点は山岳。山岳、観光、地元としての意見を提案していきたい。

### 中澤委員

バイオリン職人。NAGANO 国際音楽祭主宰。

2年前よりセミナーやコンサート等を通じて白馬にて文化活動の一環を担う。音楽、文化芸術面でサポートしたい。

### 山内委員

「これも学習まんがだ！」プロジェクトや「立川まんがぱーく」の企画プロデュースなどに関わっている。マンガをコミュニケーションのツールとしてどう使うか、という観点で場所や企画を作っている。

### 富山委員

白馬村図書館施設検討委員会委員長。

「村民が望む図書館とは何か」ということを半年ほど議論してきた。有識者会議と並行して進める検討委員会との整合を図りたい。

### 多田委員

NPO 法人芸術と遊び創造協会理事長、東京おもちゃ美術館館長。

寄付金による資金集めやボランティアによる運営など、これまでの事例を白馬村の図書館等複合施設でも活かしたい。

### 岡田委員

複合文化施設「スパイラル」シニアキュレーター。現代美術の専門家。

太田市美術図書館の立上げに関わる。図書館の奥深さや可能性を体感している。

### 大日方委員

JR 白馬駅長。登山者の多さから白馬の勢いを感じている。

20年前の長野オリンピックに携わり、白馬は思い出の地でもある。

### 花井氏

一般社団法人日本カルチャーデザイン研究所。

図書館を中心としたまちづくりに携わる。白馬では2年ほど前からワークショップ等に関わっている。

### 田中氏

一般社団法人日本カルチャーデザイン研究所。文部科学省出身。

東京以西およそ10の大学を回った後、東京や熊本で図書館長を歴任。

## 白馬村役場

総務課長 吉田、生涯学習スポーツ課長 関口、生涯学習スポーツ課 下川、  
総務課 政策企画係長 矢口、総務課 渡邊

### (3) 会議の公開について

会議は原則公開とし、傍聴を認める。

会議内容について、資料及び会議録を白馬村行政 HP で公開する。

報道各社の取材も許可。

TV はユーテレ白馬が保存用に撮影し、冒頭部分のみ番組として放映する。

### (4) 会議事項

#### ○会長および副会長の選任

事務局より、規定では互選となっているが図書館に関して豊富な知見を有する糸賀氏に会長をお願いしたい旨提案があり、委員の拍手により了承された。

糸賀会長より、有識者会議規則によれば副会長は会長が指名するとなっていることから、松沢氏を指名したい旨提案があり了承された。

#### ○会議資料の説明

事務局より会議資料 1～4 の説明

#### 「基本構想策定に向けた今年度の進め方」について概要説明

##### (日本カルチャーデザイン研究所)

業務受託後に各分野の方々に調査を開始している。

有識者会議のあり方として、「連携プロデュース」という形で、ネットワークをどのように広げるか、行政・民間等を巻き込んだプロデュース計画を進めていきたい。

機能の検討については、昨年度に実施したリサーチやワークショップを元に構成している。図書館が中心にあるが、「交流センター」という考え方を念頭をお願いしたい。

「観光地」から「リゾート地」を目指し、リゾート地を支える交流センターということでワンランクアップした意識で調査対象として進めたい。

ワークショップは SDGs の考えから図書館に踏み込みたい。17 個の目標すべてにおいて考えていくのではなく、169 個のターゲットの中から合致するものを模索しながらワークショップを進めたい。更に 20 名のメンバーがリサーチャーとなって周辺意見を幅広く収集することも行いたい。

財源に関しては交付金の取得可能性調査を別に進めており、交付金・補助金の活用可能性についても議論していきたい。

人生 100 年時代においてはマンガが新たなターゲットとなっており、また、クールジャパンでもマンガ・アニメが出てきていることから、経済効果も含めて白馬村とマンガの模索も検討していきたい。

現時点で考えられる範囲で7つの役割（資料 P18 参照）が挙げられるが、増減の可能性もある。あらゆる機能を持ち有意義にまちづくりに役立つ施設にしていきたい。

## ○委員から質疑・提案など

### 中澤委員

図書館構想が出ていることは素晴らしい。複合施設として色々なものが加えられ、白馬から発信するものが出てくるのではないかと。皆さんと共に検討する上で力になっていきたい。

### 山内委員

立川まんがばーくでは、コミュニケーションに特化しコミュニケーションの中にマンガがあるということで賑わっている。マンガは敷居を下げる効果があり、図書館に足を運びやすくなる。ただし、ネガティブな意見も出ることがあり、住民の理解には時間を要する。

### 糸賀会長

民業との棲み分けという観点で、白馬村に漫画喫茶やレンタルマンガなどはあるか？

（注：事務局より後ほど回答あり）

### 富山委員

今までの議論が含まれた方向付けになっており、「交流センター」という方針はありがたい。図書館というイメージが強いと、「図書館＝勉強、学習する場所」という認識で敷居が高くて行きにくい。ワークショップでは行きやすいイメージにしてほしいという意見や新しい場としての図書館をつくってほしいという意見が多い。

今後、どういった機能をつけると、住民、旅行者が集まりやすいかを検討していきたい。また、外国人が利用しやすいように、また、図書館目当ての観光客が出てきてもよい。

どのような施設と複合していくのかは、庁内の会議で示されるということで良いか？

### 事務局（総務課）

資料 4 は現状の説明ということで理解していただきたい。庁内の方針をまとめたうえで資料として次の会議に提示し、委員の皆さんの意見をうかがいたい。

### 多田委員

これまでのアンケートで気になったキーワードとして、「カフェがほしい」、「観光資源として望んでいる」、「ケルンのような存在」というものがあり、白馬の方々のケルンという言葉に込められた想いを具体的に知りたい。

図書館然としたものより図書館らしくないものを徹底的に作った方が良いのではないかと。例えば、カフェと思って来たら本がたくさんある、交流センターと思って来たら読書している人が多い、など。

目指すのは地域に負担をかけないこと。毎年税金を投じるような施設ではなく、多少でも稼げる施設の方がよい。

また、森林資源、木育推進を結びつけることもできるのではないか。

図書館法に則ったものにする必要はないのか？

### 岡田委員

ハードをつくって終わりとなるような施設であれば不要。昨今の施設を見ていると、ソフトの魅力、情報発信力が重要であり、それらをあらかじめ盛り込む形で計画を推進していただきたい。

文化的なものについて検討するのに女性委員が少ないのは残念である。半数以上でも良いと思う。

「図書館」というと「勉強に行く」、「来館者を待つ」場所となってしまうので、積極的に外に出ていく仕組みを盛り込みながら取り組んでいただきたい。

隠れた資産はもっとあるはずであり、ブランディングのような眼差しを持って取り組むのも面白いのではないか。

2020年オリパラに向けた国の支援も視野に入れながら計画してはどうか。2020年度中に何か具体的なアクションを起こさない手は無いのではないか。

国内の大使館や文化機関を活用することも視野に入れてはどうか。

### 糸賀会長

女性やハンディキャップのある方など多様な視点も入れなければいけないと考える。

### 大日方委員

受験前やテスト前は勉強の場になり、一般の人が入りにくい図書館も見受けられる。そういった方々も含めて考えるのかどうか。アンケートの中で駅周辺という意見があったが、どのようなイメージか知りたい。

### 松沢副会長

観光の村だが、文化的なことが置き去りにされてきた印象がある。

今までの図書館然とした図書館で無いものであれば、またコミュニティーセンター的なものあるいは文化的な活動で使いやすいものになるのであれば、大いに期待する。

### 糸賀会長

昔ながらの図書館のあり方から、最近カフェあり、商業施設あり、子ども連れが気兼ねなく入れる図書館に変わりつつある。それぞれの世代の方が自分の居場所があることが最近の図書館のイメージではないか。世代をこえ、国外を含めて地域を越えた交流ゾーンという捉え方で良いのではないか。

第5次総合計画での位置付けはどこか？

建設候補地はいくつかあるのか。文化施設や公共施設（駅、学校、ウイング21など）の周辺なのか。それによってあり方やコンセプトも変わると思われる。また、コンパクトシティの一貫として考えるのかどうか。

外国人サービスは言語対応だけではなく、多文化・異文化の双方向性として考えるべき。

維持費で一番かかるのは人件費であり、職員体制をどうするか。これをきっかけに学校図書館との連携を密にできるのではないか。例えば、小中高校の図書室と連携、司書の交流も可能ではないか。

#### **事務局（総務課）**

総合計画においては、「一人ひとりが成長し活躍できる村—学びあい育てあう村づくり」の中に、「図書館の充実」（P55）という項目がある。スケジュールの変更により目標値についても見直しがかかっている。

建設候補地については、公共施設の経年、用途など考慮しつつ、集約するメリットなども踏まえて考えたいが、現時点では具体的な候補地は無い。検討委員会でも議論しているので、有識者会議にも情報提供していく。

#### **富山委員**

「街中（まちなか）ケルン」という表現で、山ではなく街の中にあるケルンということ。目印であり、道標であり、人がいる場所である、というように色々な意味合いが込められている。山や自然というもので白馬を象徴させたく、それに繋げたいというところから出てきた。

#### **糸賀会長**

暮らしの中の道しるべということで、困ったときや迷った時に訪れると本や司書などがサポートしてくれるという意味であれば違和感はない。

#### **多田委員**

「街中ケルン」は非常に良い考え方。暮らしの中の道標、人生の道標、マイルストーン、羅針盤などであり、これが発火点となって村民の心を揺さぶるのではないか。

#### **事務局（生涯学習スポーツ課）**

建設候補地については、検討委員会でも検討していくことになっている。

住民意見の中で駅や学校の近くとあったが具体的な場所までは絞り込んでいない。

#### **富山委員**

現在の図書館は小学校の近くだが、子ども達で溢れてしまっている。そのような点から学校の近くという意見がある。また、駅の近くというのは高校生の居場所がないといったことから意見が出ている。

#### **糸賀会長**

最近、図書館が不登校やいじめにも関係した居場所にもなっている。

財源の出所に関わらず図書館法に則った図書館をつくることは可能。図書館法に則らないものも可能である。

#### **多田委員**

白馬村として、ランニングコストも含めて規模感をどのように考えているのか。



#### **事務局（総務課）**

現時点で財源的なところ、規模的なところの数値はない。

#### **糸賀会長**

経費をかけるには村民の理解が必要。それもふまえて提案をしていきたい。

#### **事務局（総務課）**

民業圧迫にならないかという点について、村内で「漫画喫茶」という名前を使っているのは、おそらく1店舗のみ。飲食店にマンガを多く備えているところは複数ある。また、美術館も規模の大小はあるが、複数存在する。

#### **(5) その他**

次回日程は暫定として10月22日(月)とする。13:30開始で会議は2時間を予定。

\*追記（その後、上記日は10月25日(木)13:30開始と変更された）

#### **5. 閉会（松沢副会長）**

## 第2回 白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議 議事録

1. 開催日時 平成30年10月25日(木) 午後1時30分～午後3時30分

2. 開催場所 白馬村役場 2階 201会議室

3. 出席者の氏名 糸賀 雅児 奥田 純子 大日方 悦夫 中澤 宗幸  
山内 康裕 富山 正明 松沢 貞一

以上7名

(欠席：多田千尋、岡田勉)

(日本カルチャーデザイン研究所)

花井 裕一郎 田中 榮博

(白馬村役場) 藤本 元太 吉田 久夫 矢口 浩樹

渡邊 宏太 下川 貴彦

(その他) 西宮 竜也 蓮井 英史 石野 真

(傍聴者) 8名

(報道) 2社

### 4. 挨拶

(1) 開会 (松沢副会長)

(2) 挨拶 (糸賀会長)

(3) 奥田委員より自己紹介 (前回欠席のため)

北陸大学経済経営学部助教。白馬高校公営塾「しろうま學舎」の立上げ、地域課題発見解決型プロジェクト学習のカリキュラム構築などで白馬村と関わってきた。

### 5. 会議事項

(1) 報告事項

◆白馬村図書館施設検討委員会報告書(案)【資料1】(生涯学習スポーツ課)

○新図書館建設の基本的な考え方(P.3～4)

音に対して寛容であること、白馬らしさ、景観の良さ、木のぬくもり、など

○図書館のコンセプト (P. 4)

「街中のケルン」がコンセプト。みんなの道標としたい。

○図書館サービス (P. 5)

白馬村に関するあらゆる資料等の収集と保存管理

○必要な施設と規模 (P. 6)

白馬らしさとして地域資料の展示

○立地条件 (P. 7)

白馬三山が展望できる場所、駅や学校の周辺などが適地

子育て支援ルーム敷地を候補地として推奨

面積などの規模は「公立図書館の任務と目標」の計算方法にて算出

○建設に向けて留意すべき点 (P. 8)

子どもの一時預かり、カフェの設置、居心地のよい空間、など

### 富山委員（図書館施設検討委員長）

「白馬らしさ」に重きをおき、白馬に関する資料の収集・活用など白馬のことが分かることを柱にしたい。また、住民に利用していただかなければ意味がないので、敷居を低くして立ち入りやすくする。この2つが大きな柱である。

飲食施設など自由な発想で多くの意見を網羅的に入れており、住民の希望を最大限取り入れたものにしたと考える。子育て中の母親からの期待が大きく、親子で気軽に来られる図書館にしたい。

<関連する質問は特になし>

### ◆図書館等複合施設に関するワークショップについて（日本カルチャーデザイン研究所）

○第1回ワークショップ 9月12日開催

参加者22名。平均年齢34歳、高校生6名とこれからの地域を担う世代が多く参加。

複合施設の検討にあたりSDGsをスイッチにして地域のことを考え、各項目に当てはめることを実施した。

○第2回ワークショップ 10月19日開催

第1回ワークショップの考え方を友人・知人にリサーチする課題をほぼ全員が実施。

集まった多くの意見から複合施設としてどのような機能が必要か探る。

3回目のワークショップに繋ぎ、機能の洗い出しや項目抽出を行った。

### 主な質疑応答、意見

- ・SDGsの項目に対して、理想だけでなく悩みやできていないことなども挙げている。
- ・図書館単体ではなく、楽しみたい、交流したいなど文化やエンターテインメントも含んだ複合施設としての期待が高いと感じた。
- ・ハードの部分にソフトが絡んでくると期待度が立ち上がってくると思われる。

## (2) 協議事項

### (ア) 複合化する公共施設について

#### ○公共図書館を含む複合施設等の建設事例【資料2】(生涯学習スポーツ課)

白馬に近い人口1万人前後の町村の図書館事例をまとめた。

#### 主な質疑応答、意見

- ・可能であれば利用者数、地元内外の割合を知りたい。
- ・利用形態(在住、在勤、在学が基本)がどうなっているか。
- ・複合化、集約化が最近の図書館の流れである。
- ・観光客に対するスタンスとしてどうあるべきか。  
現時点で、村としての意思決定はない。
- ・観光の枠だけでなく、白馬の事を知りたいというニーズに応えたい。
- ・街歩きや雨天対策など観光の要素としての要望はある。
- ・観光情報の発信という点では図書館は親和性が高い。

#### ○白馬村既存公共施設の複合可能性一覧表【資料3】(総務課)

- ・老朽化や緊急性、図書館との親和性などから役場内で全庁的に評価を加えた。
- ・場所、耐用年数、活用度などから総合的に評価し、7施設が候補となっている。

#### ○図書館等複合施設建設に関する補助事業等【資料4】(総務課)

- ・子育て支援、農産物加工など分野毎にハードを作る上での補助金制度を集約。
- ・方向性が見えた段階で詳細に調査していく予定。

#### 主な質疑応答、意見など

- ・考え方の一つとして、複合化の際に用途や組合せなどに応じて既存施設の転用、改修、集約、縮小、撤去等の可能性はある。
- ・図書館との親和性の判断基準は?→具体的な基準はないものの複合的に考えた。  
今回の資料はあくまでも現状の把握ということで理解してほしい。
- ・参考資料として捉え、この評価結果にとらわれず自由に考えていく。
- ・公共施設の複合化として住民の生活や福祉などから考えていく方向や、白馬らしさを大事にしながら民間資本や観光事業と連携していくなど、様々な可能性や方向性を様々な視点からフリーハンドで考え、積極的に提案していきたい。

### (イ) 複合化に併せて魅力を高める機能・施設について

○既存の公共施設の枠だけでなく、より交流が生まれるなど様々な視点からご意見をいただきたい。

#### 主な質疑応答、意見など

- ・新しい価値を生み出すようなものも含めて検討したい。
- ・ウイング 21 は人口に比して大きすぎる。ホールが併設されれば様々な可能性が広がる。
- ・音楽家にとって最も必要なのは録音ができる場所と音楽家が設計したホール。
- ・既存施設がベースなのか。場所もある程度決まっているのか。  
図書館を中心とした複合施設として、まずは機能を考えていき、場所はその後で考えていきたい。資金面も含めてこの会議でアイデアを出していく。
- ・山岳や自然環境が差別化要素となる。山岳や自然の事を学べる場に。
- ・各世代や観光客も含めて居場所を提供することは大切。
- ・インターネット/ソーシャルメディア時代、人生 100 年時代であり、物理的な制約条件に囚われない社会である。どう関連づけていくか。
- ・スポーツの価値が変わり、文化やエンターテインメントと近くなっているので、図書館との関係も可能性はある。
- ・移住定住促進を重視するのであれば利便性を追求し、観光振興を重視するのであればエンターテインメントを追求すべき。「居場所」は共通項である。
- ・図書館までの移動価値をどう高めるかも必要。図書館に来るストーリーをどう作るか。
- ・スポーツ、観光、音楽、芸術、文化、といった視点、生涯学習という視点も重要。
- ・ランニングコストなど運営面も非常に重要。収益を上げる方策も必要ではないか。  
例えば、カフェは誰が運営するのかといった議論も必要。
- ・図書館本来の機能を見失ってはいけない。ベースにあるのは住民であることを忘れてはいけないし、そこから様々な交流が生まれる。
- ・主役は白馬の住民。アプローチのしかたとしてスポーツ、観光、文化などがあり、また、子育てなどを支援する施設であってほしい。
- ・白馬は観光としての非日常と生活の日常が近く、融合している。図書館としても非日常と日常が融合したら面白い。ハレとケも近いと聞いている。
- ・地域の祭りにはどのようなものがあるのか？  
各地区の神社の祭り、観光客が多い夏祭り、塩の道祭り、冬の観光向け祭り、など。  
伝統行事を伝える点では図書館も関わられる。太鼓やお囃子など映像や音声で伝える。  
また、伝える場を提供する、など。
- ・AI による分析で健康寿命を延ばすには読書が良いという結果が出た。  
地域の人の健康と大きく結びつく可能性があり、健康福祉課関連施設も関係してくる。  
例：大和市の健康都市図書館。血圧計などの機器があり、保健師がいる。
- ・医療関連のヒアリングも行っているので、別途紹介していきたい。

## 6. その他

次回日程は暫定的に 12 月 3 日の午後 1 時 30 分開始とし、欠席した委員の状況も踏まえて決定する。  
→その後、平成 31 年 1 月 17 日午後 1 時 30 分～に変更された。

## 第3回 白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議 議事録

1. 開催日時 平成31年1月17日(木) 午後1時30分～午後3時30分

2. 開催場所 ふれあいセンター 2階 学習室

3. 出席者氏名 糸賀 雅児 松沢 貞一 多田 千尋 山内 康裕  
富山 正明 大日方 悦夫 奥田 純子 岡田 勉  
花井 裕一郎

以上9名(欠席:中澤 宗幸)

(日本カルチャーデザイン研究所)

花井 裕一郎

(白馬村役場)

藤本 元太(副村長)

(総務課)

吉田 久夫 矢口 浩樹 渡邊 宏太

(生涯学習スポーツ課)

関口 久人 下川 貴彦

(子育て支援課)

松澤 拓哉

(その他)

西宮 竜也 蓮井 英史 石野 真

(傍聴者)

6名

(報道)

2社

### 4. 開会

(1) 開会(松沢副会長)

(2) 挨拶(糸賀会長)

### 5. 会議事項

(1) 報告事項

◆ 複合化・集約化する既存の公共施設について【資料1】(総務課)

前回の提示から庁内で検討を進め、耐用年数・老朽度・機能的な親和性等を考慮し、図書館施設検討委員会やワークショップ等の意見を踏まえ、子育て支援ルームと白馬北小学校放課後児童クラブの2施設を複合化して図書館と併設する方針としたい。

子育て支援ルームは旧中部保育園を後利用する形で耐用年数も過ぎており、耐震化もできていないので最優先施設となっている。放課後児童クラブはふれあいセンター3階にあり、スペース的に手狭であり、事務フロアとの共存は課題も多いことから複合化の対象とした。

#### ◆ 子ども・子育て支援施設整備の方向性【資料2】（子育て支援課）

子育て支援ルームの利用に関するアンケートでは、冬季・雨天時の遊び場が求められており、児童と保護者にとっては重要な位置付けとなっている。また、鑑賞会などの各種イベント開催も期待されている。

新施設に整備する機能の考え方としては、①子育て支援、②母子保健、③保育、④学び・交流、⑤屋内型広場、⑥公園、⑦図書館との連携、の7つである。

#### ◆ 公共図書館を含む複合施設等の建設事例【資料3】（生涯学習スポーツ課）

第2回の資料に利用登録者数と登録範囲を追加した。また、指定管理等による運営事例を載せた。

#### ◆ 図書館等複合施設に関するワークショップ【資料4】（日本カルチャーデザイン研究所）

- ・1回目：SDGsを切り口として白馬村に足りないもの・あったら良いものを発想
- ・2回目：参加者が周囲にヒアリングしてきた意見・アイデアのまとめと機能の検討
- ・3回目：各自の意見を出し合い、考え方を整理

子育て・教育への関心・期待が高く、中高生の居場所、医療・健康の窓口、外国人を含めた観光スポット、悪天候時に楽しめる場所等の意見が目立った。

#### <報告事項に対する質疑等>

##### （奥田委員）

資料2で他自治体との比較対象として塩尻市と岡谷市を選んだ理由は？

##### （事務局）

県内でも子育て支援が充実しており、複合化事例や先進事例である為。

##### （糸賀会長）

信州型コミュニティスクールの制度概要と財源は？

##### （事務局）

文科省のコミュニティスクールに準じた形で、学校と地域住民の協働による地域に開かれた学校づくりを進めるための長野県独自の仕組み。財源的な補助は特にないが、白馬では小中学校3校すべて認定されている。

**(富山委員)**

放課後児童クラブに利用料を徴取している理由は？

**(事務局)**

指導員等の費用を受益者負担としていただいている。利用料は2,300円/月。

**(岡田委員)**

子育て支援施設との複合化を基本方針とするとあるが、そこに至った背景は？また、複合化は決定事項か？前回欠席したため教えてほしい。

**(事務局)**

前回、複数の施設を提示して議論いただいたが、庁内で絞ってもらった方が良いとの意見があったので候補を限定した。今後の税収の減少や建設費・維持費を考えると複合化して効率化を図るのが全国的な動向である。ただし、あくまでも村の方針ということでとらえていただき、他の施設や機能も含めてご意見をいただきたい。

**(山内委員)**

既存施設の老朽化という現状を踏まえて新たな施設を検討するということか？施設の老朽化ありきの議論では、単に複合化するだけで前向きな要素が感じられない。「子育て支援に力を入れる」という方針があって施設を作ると、そうでないのでは受け止められ方が異なる。子育て支援を基本方針とすると、インバウンド視点などがトレードオフになると考えられる。

**(事務局)**

村としては子育て支援を強化する方針であるという前提で議論していただきたい。複合化した場合の具体的な機能の内容については今後の議論となるが、全体的な状況を踏まえての村の方針である。

**(糸賀会長)**

外国人観光客や居住者への配慮はどうか？

**(事務局)**

観光で言えば、外国人に限らず雨天時の時間の過ごし方としてのニーズはあると思われる。外国人居住者は冬期で800~900人程度、通年では200人以上定住しており、村として多文化共生の取り組みを進めている。

**(大日方委員)**

今後の進め方について教えてほしい。

**(事務局)**

今年度は基本構想を策定することとしており、複合化する施設・機能を決め、場所についてはある程度の候補を考えたい。来年度以降で場所を確定し、使い方・使われ方や必要な面積、用地対応などを詰めながら基本計画を策定していく予定である。

**(奥田委員)**



ワークショップと基本構想の関係性は？

**(日本カルチャーデザイン研究所)**

ワークショップと有識者会議で出された意見をしっかりまとめていき、村の子育て支援という方向性を踏まえて基本構想に取り込んでいきたい。

**(糸賀会長)**

ワークショップの中で子育て支援等の意見は出されたか？

**(日本カルチャーデザイン研究所)**

「子ども」や「少子化」というキーワードは各グループで出されたほか、中高生も含めた「居場所」という視点も多く見受けられ、根底の考え方として子育て支援の雰囲気は感じた。

**(糸賀会長)**

ワークショップの意見からは財政的な配慮、受益者負担のような意向を感じる

**(日本カルチャーデザイン研究所)**

他の地域では「公共サービスは無料にすべき」という意見が多いが、白馬は特殊で有料化・事業化の話も出た。

**(糸賀会長)**

図書館法により公共図書館として住民から利用料を取ることはできないが、白馬村では村外の利用者も一定数見込まれるため、観光客も含めて村外利用者から何かしらの形で料金を徴取することも検討するべきではないか。異文化交流や地域の価値観を知る場所になれば人気のスポットにもなりうる。ただし、地元の人が利用できなければ本末転倒であるため、何かしらの差別化が必要。

**(事務局)**

今後検討したい。

**(松沢副会長)**

現時点で場所について言えることは？

**(事務局)**

北小学校や白馬村役場、白馬駅周辺の可能性が高いと考えているが、複合する施設や機能によって検討していくべきと考える。

**(多田委員)**

規模はどれくらいを想定しているのか。それによって機能が絞られることも考えられる。

**(事務局)**

現時点で確定的な規模を示すことはできないが、人口規模にある程度比例しているので、資料3が参考になると考えている。また、複合する施設がある程度決まってくれば、それに必要な規模感も見えてくるため、他の事例も含めて今後詰めていきたい。

**(糸賀会長)**

単純に既存施設を足したものよりは大きくなるのではないか。図書館を考えたときに、人口 9,000 人に對して 350 m<sup>2</sup>は小さすぎるが、拡張しなければ新たな図書館をつくる意味がないと思われる。

**(事務局)**

公共施設の集約は国の方針でもあり、国からの財政支援などを考えると足し合わせた面積よりも小さくした方がメリットはある。子育て支援ルームで実際に利用しているのは 300~400 m<sup>2</sup>程度である。

**(糸賀会長)**

財政面も大切だが、全てが中途半端にならないよう、十分に機能を果たせる規模は必要になると思われる。

**(事務局)**

既存施設や周辺自治体の事例はあくまでも目安として参考にさせていただきたい。

## (2) 協議事項

### ◆ 複合化に合わせて交流を生み魅力を高める機能・施設について

**(糸賀会長)**

「交流を生む」の「交流」のイメージはどんなものか。

**(事務局)**

住民を対象にした場合は気軽に立ち寄れる場所。海外からの移住者も含めた住民の交流、観光客と住民との交流も地域にとってはメリットがあると考えている。

**(山内委員)**

子育てに関して、「地域としてどういう子どもが育ってほしいか」という視点も重要で、それを基に議論していく必要もある。白馬には豊かな自然、スポーツ・アウトドア、海外移住者、五輪レガシー、歴史、観光といった特徴があり、一方で世の中は確実にデジタル社会・ネット社会に向かっている。そのような状況の中でバーチャルとリアルとの融合は、このような地域だからこそ起こりやすいのではないか。ウィンタースポーツのデジタル化なども含めた e スポーツもこれから進化していくと思われる。自然環境などこの地域らしさを活かしたものが良く、日本でも特殊な地域になりうる。リアルとバーチャル、異世代交流、村内外の交流、最近の移住者と昔からの居住者など、さまざまな交流があるがワークショップではどういった意見があったか。

**(日本カルチャーデザイン研究所)**

インバウンドや観光、海外からの移住者などとの交流をイメージしている。一段階上の教育面などでの交流という感触であった。

**(糸賀会長)**

これからの白馬に求められる交流とは？

**(松沢副会長)**

集落ごとや世代でつながっている部分はあるが、離れた地域や多世代などが交流できる場は必要だと感じる。

**(富山委員)**

昔からの住民、移住者、外国人でそれぞれ独自のコミュニティをつくってしまいがち。また、仕事や趣味での結び付きはできるが、それ以外のところでは交流する場がない。お互いを知るためにもきっかけが必要であり、中核となる施設があると交流しやすくなる。

**(奥田委員)**

教育的な交流という観点で、白馬高校公営塾「しろま学舎」では子どもと大人をつなぐことを意識していた。高校生が新図書館に望むものをまとめた中でも「交流」がキーワードになっていた。高校生の時に地元の仕事を知っていて、地元への愛着があるとUターンする率が高いというデータがある。白馬でも子どもたちが地域の仕事を深く知ることで、子どもたちの定住につながるのではないかと。

**(多田委員)**

「老朽化した施設の寄せ集め」ではなく「理想的な子育て実現するための施設」という視点・発信が必要ではないか。であれば、ワークショップや会議の場などでも子育て支援の要素を強く訴える必要がある。施設の規模がある程度限定されるとなれば、その中でどう集約していくのが重要である。

**(事務局)**

施設の老朽化という観点だけでなく、実際に子育て支援には力を入れており、子育て支援センターの開設や小児科オンラインなど、危機感を持って様々な施策を実施している。「老朽化した公共施設をまともただけ」と捉えられないように、機能も含めてしっかり検討するとともに、場所についても様々な面から可能性を考えたい。

**(多田委員)**

村外の利用者から受益者負担のような形で料金を得る場合、その先には何を求めるのか。「金食い虫になるような施設を作らない」という強い思いがあるのか。節約型の施設とするのか、ある程度の初期費用をかけてでも運営費・維持費などを賄う「稼げる施設」とするのか、財政面からも検討するべきと考える。

**(事務局)**

村として財政的に厳しい面もあるので、稼げる施設であることが望ましいが、簡単な話ではないため、ハード面・ソフト面の両方から検討したい。

**(大日方委員)**

複合施設までのアクセス、交通という面も考える必要がある。例えば長野市では自転車で来館される方が多い。多くの利用者がいる小布施の事例も参考になるのではないかと。

**(岡田委員)**

子育て支援施設と図書館の複合化だけでは利益を生めないし、独自性も出せないのではないかと。財源面を考慮すると独自性をいかに発揮するかが大切で、それによって利益を生み、持続的な運営ができる施設になると思われる。

白馬はアートとの親和性が極めて高い。アーティスト・イン・レジデンスなども含めて、大使館等とも協議をすることで、移住者・観光客が多いオーストラリアとの芸術面での連携なども可能ではないか。まだまだ野ざらしになっている未活用資産も村内にたくさんあると思う。

長野からバスで来村する方が多いものの、駅には鉄道が停まる機能だけではなく、人や情報が集積する場所という歴史がある。駅をうまく活用することを考えても良いのではないか。

#### (糸賀会長)

交流を生むには仕掛けが必要で、全国的にはおしゃべりできるカフェを併設する事例が多く、安易ではあるが一定の効果がある。

図書館は利用者の年齢層が広く、リピーターが多いのが特徴で交流を生み出しやすい。多くの人の居場所となるよう、海外の新聞や書籍も必要ではないか。

交流の手段として言語の壁があるが、それを乗り越える方法として、音楽・芸術・スポーツなどがある。白馬にはスポーツはあるので、アートが入ってくれば裾野が広がるのではないか。

イベントやセミナーなどの企画を実施することによって参加者の交流が生まれ、情報発信もできる。実施には人財が必要であるが、リピーターを育てていくことも重要。

図書館の利用者は多種多彩で幅広く、一方で子育ては地元で確実に需要があるので、次世代の人財を育てるという観点では子育て施設と図書館の組み合わせは良い。

全国的にコミュニティ・カレッジが増えている。地域の人が白馬のことを学べる場や企画が継続されることで人財が育ち、付加価値を産み出す施設になり得る。公民館講座は参加層が固定化しがちであるが、来訪者が多様である図書館の特徴を活かし、コミュニティ・カレッジの拠点となってほしい。

#### (事務局)

地域に外国人は多くいるものの、子どもたちと交流する機会は少ない。言語や多文化を学べる場があれば、地域コミュニティの融合が進むと思う。

#### (山内委員)

マンガで仕事を紹介するなど、活字よりも伝えやすい場面もあるうえに、交流を生み出したり、家族で足を運んでもらうためのツールとしてもマンガは有効である。交流のための媒体は多様であり、海外の方の嗜好も含めて白馬に合ったものを選択すれば良い。

#### (糸賀会長)

小中高の学校図書館との連携は考えていくべき。例えば「子ども司書」として学校の図書委員が公立図書館で就業体験をすることも考えられる。子どもにとって大人や外国人との交流の場になる。

図書館はいろいろな舞台になりうる。気軽に立ち寄る施設だからこそ、健康相談などの医療関連の仕掛けも可能だし、ボランティアを通じた交流も取り組むべき。

#### (多田委員)

運営費を抑えることを考えた時に、ボランティアの活用をどのようにするか。東京おもちゃ美術館では、ボランティアを「おもちゃ学芸員」という役職名にして、その育成に力を入れている。登録者は340人で、全員がNPO法人の正会員として会費を納入し、有料の講習会も受け、制服も買っている。年間延べ5,000

人が活動し、運営費を圧縮しているだけでなく、声かけやサポートなど施設のホスピタリティを支えている。

白馬村の新図書館複合施設においても、村民が自ら企画運営に参画するのか、村役場にアウトソーシングするのか。誇りをもって働ける環境、自ら参画して盛り上げる仕組みがつくれれば、大きなエネルギーが生み出せる。

#### (富山委員)

計画段階でいかに住民を巻き込むかということも重要。構想の段階から住民に参画してもらえば、住民を巻き込んだ運営にも繋がると考える。

#### (糸賀会長)

「ボランティア」ではなくて、「サポーター」という考え方はどうか。労力を提供する人がいてもいいし、資金を提供する人がいてもいい。全国的には「雑誌サポーター制度」というものがある。企業や施設、個人の出資で、定期購読が賄われている。「Library Friends - 友の会」という位置付けにして、会員同士の交流を生み出すことも可能である。子どもはお金は出せないが体を動かすことはできるし、それが交流や学びにもなる。

## 6. その他

次回日程は2月13日(水)の13時30分から、場所はふれあいセンター2階学習室で開催する。

## 第4回 白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議 議事録

1. 開催日時 平成31年2月13日（水）午後1時30分～3時30分

2. 開催場所 白馬村保健福祉ふれあいセンター2階 学習室

3. 出席者氏名 糸賀 雅児 奥田 純子 大日方 悦夫 中澤 宗幸  
山内 康裕 岡田 勉 富山 正明 松沢 貞一  
以上8名（欠席：多田 千尋）

（日本カルチャーデザイン研究所）

花井 裕一郎 田中 榮博

（白馬村役場総務課） 吉田 久夫 矢口 浩樹 渡邊 宏太

（生涯学習スポーツ課） 関口 久人 下川 貴彦

（子育て支援課） 松澤 拓哉

（その他） 西宮 竜也 蓮井 英史

（傍聴者） 8名

（報道） 1社

### 4. 開会

（1）開会（松沢副会長）

（2）挨拶（糸賀会長）

### 5. 会議事項

（1）報告事項

#### ■子ども・子育て支援施設整備に向けての検討【資料1】

資料1により、子ども・子育て支援施設における機能別の利用時間帯、諸室の必要面積、併用の可能性を中心に説明した。

## □質疑

### (奥田委員)

資料における諸室の「併用」という言葉の意味合いについて

### (事務局)

「〇」の付いているところが事業を実施するうえで必要となるもの(主として利用するもの)で、「併用」とあるものは空いているときに兼用できるということである。

### (岡田委員)

資料のタイトルとして「子育て支援施設」とあるが、複合施設の一機能であるならば「子育て支援機能」という表現が良いのではないか。

### (事務局)

担当課において施設整備という位置付けで検討してきたが、会議の資料としては機能という表現が相応しいため、構想においてはそう表現する。

### (富山委員)

複合施設の床面積から見れば、図書館機能としての割合が大きくなると思うが、図書館施設と子育て支援施設の部屋・設備を併用するという点については、今後検討するという点でよいのか。

### (事務局)

そのとおりである。

### (糸賀会長)

読み聞かせ広場や各種教室・相談事業等も図書館との複合化で併用が検討されるものと思う。

## (2) 協議事項

### ■複合施設の方向性【資料2】

基本構想(案)を資料として配布する予定であったが、詳細をまとめきれていないため、本日の会議においてこれまでの意見を改めてまとめた上で、基本構想(案)に反映させることとしたい旨を事務局から説明した。

### (糸賀会長)

本日が最終回であることから、これまでの意見を整理した上で、複合施設の方向性を絞り込んでいきたい。資料2の各項目について、基本構想で文章化できるよう各委員の専門的分野から補足も含めてご意見をいただきたい。

### (山内委員)

子育て支援機能をこの複合施設の中に取り入れることは決定事項か。

### (事務局)

資料に掲載している全ての機能を複合施設にて整備するところまでを決定したものではないが、

基本的な方針としては決定したものとしていただきたい。

**(山内委員)**

複合施設の規模について、子育て支援機能関連では 800 m<sup>2</sup>程度、図書館として 1,000~1,200 m<sup>2</sup>、併せて約 2,000 m<sup>2</sup>ということであるが、建設場所と規模感について、村としてどのように考えているか。各機能が中途半端にならないようにするためには、目安がないと議論しにくい。

**(事務局)**

今回の基本構想において、場所や規模の詳細まで決定するのは難しいが、機能の数と種類によって駐車場確保等も含めて必要となる面積が変わってくる。この後の基本計画の段階で詳細を詰める予定であるため、現段階では枠を設けずに議論していただきたい。

**(糸賀会長)**

今回の有識者会議では、複合施設が持つ様々な機能について、漏れが無いようにしておくことを考えていただきたい。

**(富山委員)**

項目として挙がっていないが、地域資料の保存・管理についても触れてほしい。現状では地域資料の受入・管理・展示をする施設がない。震災の際にも被災した土蔵からいろいろと出てきたが、行き場に困った。保存・管理だけでなく、村民や観光客に公開して知っていただくことも検討してほしい。

**(事務局)**

資料の保存・管理及び活用について、今後検討していきたい。

**(糸賀会長)**

山とスキーの資料館やオリンピック記念館などは、白馬の歴史や文化を知る上で貴重な資源である。今回の複合施設においても、収集・保存・提供機能を持たせることは必要であり、基本構想でも触れておくべきと考える。

**(中澤委員)**

図書館の付帯施設として、国際共通語でもある音楽の活用を考えてほしい。図書館機能の中に、音楽という言葉を活用ができれば、楽譜という世界の共通言語で、人々の交流も促進できるのではないか。

**(糸賀会長)**

音楽を用いた図書館の活動は、これまでも見受けられる。今回の複合施設内でのコンサートなどは、一考の価値があると思われる。

**(山内委員)**

これまで議論してきた子育て機能は住民向けの機能であるが、村外の人たちへのサービス提供も議論する必要がある。具体的な例として、マンガ図書館が考えられるが、500 m<sup>2</sup>以上の面積が必要となると同時に、アートにおいても同程度の広さが必要と思われるが、ある程度の規模がないと外から人を呼ぶ施設になれない。

**(糸賀会長)**

機能だけを全て盛り込んでも、それぞれが中途半端な施設になる危険性も伴っているため、十分な検討が必要となる。

**(事務局)**



来年度、基本計画を策定していく中で、方向性について踏み込んで検討を行いたい。

**(大日方委員)**

公共交通機関に勤める者として、海外からのお客様の多さを実感している。駅の中に分館を設けるなど、駅利用者の施設利用についても検討してほしい。

**(糸賀会長)**

観光客を中心に、借りた本を駅で返せる地域もある。観光案内や多文化共生の観点からも検討が必要である。

**(松沢副会長)**

予算規模、施設規模を考え、まずは「利用しやすい図書館」を基本に考えなければならない。さらに、村内外の人々が集まりやすい「コミュニティセンター」機能も大切に考えてほしい。

**(糸賀会長)**

複合施設の柱でもある「交流」という観点では、図書館ほど最適な場所はない。本、雑誌、新聞を読むために人々が集まる場所であるし、音楽やアートも交流手段となる。言葉は通じなくても、音楽・スポーツの分野では、誰もが交流ができる。そういった仕掛けで交流を促進するのも大切ではないか。また、雨の日に行く場所がないという話もあったが、雑談できる空間としてカフェなどは重要であるし、閲覧席・ソファ席は多く備えた方が望ましい。

**(奥田委員)**

村として複合施設に何を求めるのか教えてほしい。それによってアートが必要なのか、マンガを活用するのか決まってくるのではないか。

**(事務局)**

「これ」というものが一つあれば尖ったおもしろい施設ができるかもしれないが、現状では、村内外の交流を生み出す機能も求められているし、交流だけではなく維持運営を考えて稼げる施設にするべきだという声もある。観光客にの利用される施設であってほしいが、「また観光施設」と思われまいように村民にもしっかり目を向けたい。という角が取れて丸くなってしまうが、そういった多様な交流も白馬の特徴の一つであると考えている。

**(糸賀会長)**

図書館である以上、「知る」・「学ぶ」ということがメインとなる。本を借りて返すだけの場所ではなく、館内で「調べ」たり、読書や交流を楽しめる「滞在型の施設」を目指すべきと考える。最初から学びを目的としていなくても、結果として何かを学べる場所であれば良い。また、「集う」という視点も外せない。様々な声や希望がある中で、それらをわかりやすく村民に示すことが重要である。

**(岡田委員)**

深い議論をするためにはコンセプトは重要。ワークショップで出された意見としてインキュベーションがあったが、ぜひ項目として加えてほしい。また、アート分野では、芸術祭やフェスティバルの開催を検討課題として挙げていただきたい。さらに、司書や学芸員など専門家を育成する項目も必要ではないか。最後に、東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、白馬村への観光客動員と、駅舎などを利用して、村を挙げての白馬村の紹介などを行えば、村人と観光客の顔が見えることに繋がることにならないだろうか。机上の議論だけでなく、「何かやってみる」ということも大切。

**(糸賀会長)**

機会を捉えてイベントのようなものを行いながら、施設に対する村の方向性を村民や観光客に示すことで、白馬でしかできないこと・他と一味違うことをやろうとしているという関心を持ってもらえれば良いのではないかと。

**(日本カルチャーデザイン研究所)**

他の自治体の事例をお示しして、白馬村の新しい取り組みを多くの人々に関心を持っていただけるよう動いていきたい。

**(山内委員)**

10年後の村の未来像はどのようなものか。そのために施設を手段として捉え、村内外の人々に対して発信していくことが必要。テーマや対象者が明らかになればマンガの選書は可能であるし、床面積に拘らず設置することも可能である。地域ゆかりの著者の作品やスキーなど白馬に関連するものを置くこともできるのではないかと。

**(富山委員)**

「研究施設の誘致」については、具体的に何かあるのか。

**(日本カルチャーデザイン研究所)**

ワークショップの中で、マンガ・医療・環境などニッチな研究所を誘致したらどうかという意見があった。

**(糸賀会長)**

医療・福祉施設との連携と複合施設の関係について、どういうことなのか説明を願いたい。

**(日本カルチャーデザイン研究所)**

ワークショップや村民への個別ヒアリングにおいて、小児科・産婦人科を複合施設計画の中に盛り込んでほしいという意見があった。

**(事務局)**

小児科、産婦人科との連携に関し、白馬村では平成30年度から、小児科オンラインというネットワークを使った相談サービスを始めている。

**(糸賀会長)**

ある自治体では、図書館が入っている施設で、曜日単位で各診療科、健康チェックなどを実施している例があるように、図書館に来る時に医療相談や健康相談をしてもらう仕組みを取り入れてみることも良いのではないかと。多様な人が気軽に来館される施設だからこそ、敷居が低くなり親和性は高い。昨今、全国の図書館において医療健康情報提供サービスを行うところが増加している。これは、家庭医学・医学書の情報を図書館司書が調べて文献などを提供するサービスである。医療そのものではないが、自分の病について、家族も含め知ることにより医療機関で治療してもらう時、非常に役立っているという実績がある。医学以外でも、法律相談や教育相談なども他分野でも同様である。図書館資料を利用し、予め知識を蓄えた後の相談は、とても効率的でもある。「知る」、「学ぶ」、「集う」ことで新しい白馬村の施設の便利さや有効性を直に感じてもらうのが、この施設の究極の目的でもある。

**(松沢副会長)**

複合施設の建築場所について、設置場所が非常に重要となる。プロセスも含めて丁寧に進めなければならない。

**(※賀会長)**

時間を十分にかけて、しっかりとした合意形成を図りながら慎重に進めることを願う。

**(奥田委員)**

建設場所によっては、図書館が離れた所にあるため、利用を控えるといった人が現れることも考えられる。そのため、ネットワークシステムで予約ができ、その書籍を家の近くまで配達ができるなど、今以上の貸し出しサービスの拡大を検討願いたい。

**(事務局)**

村としては、公共交通の充実に向けた検討も行っているため、公共交通を利用したの来館ということも考えている。ご提案いただいたサービスも含めて検討したい。

**(※賀会長)**

予約した本を受け取ることができ、返すこともできる「サテライトライブラリ」を村内に複数個所設置するのも方法のひとつである。それが、学校や公共施設という場所であっても良いのではないかと。学校図書館を利用すれば、学校司書の人とも繋がりができて、図書館と学校図書館との連携の実現も可能となり、白馬村独自の新しい図書館サービスができるのではないだろうか。都市部では実現不可能なサービスを、是非白馬村で実現してほしい。

## 6. その他

**(事務局)**

図書館施設検討委員会、有識者会議、ワークショップ・ヒアリング・アンケートなど、それぞれ多数の意見を出していただいた。しっかりとまとめて基本構想として策定したい。

基本構想（案）については、有識者に内容をご確認いただいた後、パブリックコメントを実施する予定である。

お忙しい中、会議にご参加いただいたことに、心から感謝申し上げます。

## 7. 閉会（松沢副会長）